

MISAWA

HEARTH

2009年度ミサワホームCSR報告書





HEART

深く信頼されるミサワホームをめざして

お客さまをはじめ、多くの人びととの共同作業である住まいづくり。

だからこそミサワホームは、「HEART」すなわち信頼関係を大切にしたい企業活動に努めています。

「HEART」の 카테고리では、その取り組みを詳しくご紹介しています。

HEART
HEARTH
EARTH

CSR活動テーマ

地球にやさしいミサワホームをめざして

住まいという居住環境をはじめ、ミサワホームはあらゆる環境をデザインする企業として、

「EARTH」すなわち地球環境に配慮した企業活動に努めています。

「EARTH」の 카테고리では、その取り組みを詳しくご紹介しています。



EARTH

【HEARTH】住まいは“巢まい”。鳥の巣がヒナを育てるためにあるように、住まいづくりは元来、子どものためにあるとミサワホームは考えています。社名の「HOME」には、単なる器としての「HOUSE」ではなく、家族のふれあいが感じられるような、暮らし方までトータルに考えられた住まい「HOME」を提供するという創業以来の理念が込められているのです。欧米には「HEARTH&HOME」という言い方があります。「HOME」に「HEARTH(暖炉)」があつてはじめて暖かき我が家になる、という意味ですが、ミサワホームではこの「HEARTH」を、「HEART(心)」と「EARTH(地球)」が一体化した言葉に見立てました。「HEART」は「深く信頼されるミサワホームをめざして」、「EARTH」は「地球にやさしいミサワホームをめざして」という意図を込め、CSR推進活動のテーマとしています。

■会社概要

社 名 ミサワホーム株式会社
(MISAWA HOMES CO.,LTD.)

設立年月日 平成15年8月1日
(旧ミサワホームとしては昭和42年10月1日)

主要事業所

本 社 東京都新宿区西新宿二丁目4番1号 新宿NSビル

本 館 東京都杉並区高井戸東二丁目4番5号

LACビル 東京都杉並区浜田山三丁目19番11号 LACビル

資 本 金 23,412,999,000円(平成21年3月31日現在)

主 要 事 業 ●建物及び構築物の部材の製造及び販売
●建築、土木、外構、造園その他工事の設計、請負、施工及び監理
●不動産の売買、交換、賃貸、仲介、管理及び鑑定
●建設資材、建設設備機器、建設機械装置、家具及び室内装飾品の設計、製造、施工、販売、賃貸及び輸出入
●高齢者向集合住宅施設の経営並びに当該施設の利用権の販売及び仲介
●介護保険による居宅介護業務他、介護業務関係
●上記事業に関する調査、研究、技術開発、教育及びコンサルタント業務 他

従 業 員 数 738名(平成21年3月31日現在)

■編集方針

ミサワホームでは、2007年度より当社の活動がどのように社会と関わっているかを、さまざまなステークホルダーの方々にご理解いただくためにCSR報告書を発行しています。ミサワホームのCSR活動テーマである「HEARTH」に基づき、前半を「HEART(深く信頼されるミサワホームをめざして)」、後半を「EARTH(地球にやさしいミサワホームをめざして)」という2部構成としています。作成にあたり、環境活動部分は環境省の「環境報告書ガイドライン(2005年版)」を、社会的側面についてはGRI(Global Reporting Initiative)の「GRIガイドライン2006年(第3版)」を参考にしています。

■対象範囲

ミサワホーム株式会社及びミサワホーム工場(木質工場:11工場、木質部品工場:3工場、セラミック工場:1工場)

対象組織 本報告書の対象範囲はミサワホーム株式会社を中心として記載していますが、一部、ミサワホーム工場(15工場)、販売・建設を担うミサワホームディーラーを含むミサワホームグループの活動(ミサワホームグループの一覧についてはP55を参照)についても記載しています。

また、個人の所属・役職名、組織名については発行日現在のものとしています。

対象期間 2008年度(2008年4月1日～2009年3月31日)を基本としています。必要に応じて2008年度以前及び2008年度以降の活動内容も記載しています。

発 行 日 2009年9月(次回発行予定 2010年8月)

■目次

会社概要・編集方針	2
トップコミットメント	3
企業理念	5
経営ビジョン・中期経営計画	6
4つの育む	7
コーポレートガバナンス	8
2008年度CSR活動トピックス	10
HEARTHトップページ	15
お客さまと共に	16
従業員と共に	24
取引先と共に	26
株主と共に	27
社会と共に	29
EARTHトップページ	33
ミサワホームグループの環境への取り組み	34
ミサワホームの環境会計	35
ミサワホームの環境マネジメントシステム	36
ミサワホームの環境への関わり	37
2008年度環境活動の実績と自己評価	39
地球環境と共に	42
ミサワホームグループの沿革	53
ミサワホームグループネットワーク	55

トップコミットメント



永年培ってきた
「技術力」と「デザイン力」で、
今後も良質な住宅の開発と
普及に取り組んでまいります。

ミサワホーム株式会社
代表取締役社長

竹中 宣雄

『住まいのNo.1ブランド』を目指す中長期経営ビジョン

2008年度のが国の経済は、米国におけるサブプライムローン問題に端を発した世界的な金融危機の影響を受け、企業の業績は急激に落ち込み、設備投資の減少や雇用環境の悪化を招くなど、景気の後退局面を迎えることとなりました。住宅業界においても、この影響は避けられず、雇用不安や賃金不安による住宅取得意欲の減退などにより、新設住宅着工戸数は41年ぶりの低水準となった昨年度をやや上回ったものの、期待された回復には至らず103万戸台にとどまりました。このような環境のもと、ミサワホームでは2006年に発表した中長期経営ビジョンの実現に向け、鋭意取り組んでまいりました。このビジョンではコーポレートスローガンである「住まいを通じて生涯のおつきあい」という精神のもと、良質な「住まい」を提供し、豊かな社会づくりに貢献するための経営理念とステークホルダーごとの行動指針に基づき「お客さま満足の徹底追求」と「時代をリードする発想力」で『住まいのNo.1ブランド』を目指しています。

「4つの育む」

今年、ミサワホームではこの中長期経営ビジョンによる企業姿勢をより具体的にするため、子どもの未来を真剣に考え、環境保全から日本の心の継承まで広い視野で住まいづくりを考えた「4つの育む」を提唱いたしました。4つの育むとは「環境を育む」「暮らしを育む」「家族を育む」「日本の心を育む」です。「住まいは巢まい」。「住まい」という言葉は鳥がヒナを育てる「巢まい」が語源であるとも言われ、住まいづくり



は元来、子どもを育てるために行うものと当社グループは考えています。よりよい子育てのため、子どもの夢を大きく育むため、親子のふれあいを豊かにするために、住まいをつくる。この「巢まい」づくりこそがミサワホームの原点です。この考えに基づく企業活動のひとつの成果として2008年度は子どもの視点に立った商品開発や家庭内での子どもの事故調査などを通して、子育てを応援する住まいの工

夫やアイデアをまとめたユーザー参加型のWEBサイト「ミッフィーの子育てにいいおうち」が、2007年度に引き続き第2回のキッズデザイン賞を受賞しました。この賞はキッズデザイン協議会が子どもを生み育てやすい生活環境の実現に向けて、子どもの安全・安心の向上、健やかな成長発達に役立つ製品や活動を顕彰する制度です。

太陽光発電を中心とした環境配慮住宅の開発

「4つの育む」のうち今一番注力しているのは「環境を育む」です。本年は京都議定書における排出削減対象期間の中間年にあたり、ポスト京都議定書として政府は2020年時点の温暖化ガス排出削減の中期目標を「2005年比15%減」と定め、公表しました。これを達成するには新築住宅の7割以上に太陽光発電を設置し、普及率も現状の20倍とする必要があります。政府もそのために今年1月から太陽光発電に対する補助金を復活させました。太陽光発電についての当社の取り組みは早く、'92年には売電契約の住宅第1号として、業界に先駆けて試行棟を建設しています。その後、オール電化の「太陽の家」の発売などを経て、'98年には超高断熱・高気密による省エネルギー化と設備を高効率化した住宅の屋根全面に太陽光発電モジュールを搭載し、消費エネルギーを発電エネルギーが上回るという、世界初のゼロエネルギー住宅「HYBRID-Z」を発売しています。さらに、今年3月には、建設時に必要なエネルギーも居住段階で回収できるライフサイクルエネルギー収支ゼロを目指した“次世代ゼロエネルギー住宅”の試行棟を昨年の北海道、旭川に続き、三重県に建設しました。また、このゼロエネルギーというコンセプトを維持しつつ、太陽光発電によるエコライフをより身近なものとしていただけるよう、コストパフォーマンスにすぐれた企画住宅SMART STYLE「ZERO」も4月に発売しています。環境上のエネルギー使用には2つのニーズがあります。ひとつは地球温暖化への対応という社会的ニーズ、もうひとつは、夏涼しく、冬暖かくすごしたい、より快適な生活を



したいという生活者のニーズです。この2つはCO₂の排出量や化石燃料の消費という面で相反するニーズですが、これをうまく問題解決するのが住宅メーカーの役割と考えています。これからも太陽光発電を中心とした環境配慮型住宅を開発し、化石燃料消費やCO₂の排出量を抑えても快適に暮らすことのできる「ガマンしない生活」を提供していきます。

コンプライアンス

コンプライアンスについては会社が社会的責任を果たすための最も基本的な事項と捉え、社内に「経営改革委員会」を設置し、定期的な法令順守状況を確認しています。また、研修などを通じて役職員に対するコンプライアンス意識の徹底も図っています。しかしながら、今年2月、当社の連結子会社である株式会社ミサワテクノにおいて、防火認定と異なる仕様の内部ドアを生産し、当社建物に使用されていたことが判明いたしました。新認定を取得した法適合品に全て交換させていただいておりますが、対象となる建物のオーナーさまにはご心配とご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。この問題が発生した原因は、開発担当者段階における防火設備に対する認定制度の理解不足と、それを牽制できなかった組織上のチェック体制不足であると考え、深く反省しております。再発防止策として開発業務手順および社内チェック体制の見直し、認定制度に対する社員教育の再徹底などを実施いたしました。

わが社におけるCSRとは

ミサワホームのCSR報告書発行は今年で3回目となりますが、当社のCSR活動として取り組むべき課題はまだ多く残されています。CSR専門部署もまだ設けておりません。しかし、「住まいを通じて生涯のおつきあい」というコーポレートスローガンに基づき、社会のニーズにこたえる優良な住宅を開発し、それを普及させるという役割を全部門が果たすことが、わが社の最大のCSR活動であると思っています。そのためにミサワホームが永年培ってきた、すぐれた「技術力」と「デザイン力」を活かし、良質な社会ストックとなる住宅の開発に、グループ一丸となって取り組んでいく所存です。この報告書を最後までご一読いただき、忌たんのないご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

企業理念

ミサワホームの社名にある「HOME」の文字。そこには、単なる器としての家（HOUSE）ではなく、家族のふれあいが感じられるような、暮らし方までトータルに考えられた住まい（HOME）の提供、という創業以来の住まいづくりの理念が込められています。

【コーポレートスローガン】

私たちミサワホームグループは「住まいを通じて生涯のおつきあい」という精神のもと、良質の「住まい」を提供し、豊かな社会づくりに貢献します。

【経営理念】

1 安全・快適で環境を重視した家づくり、街づくりを行います。

2 法令を遵守し、倫理を重んじて誠実に行動します。

3 地球全体を視野に入れ、環境保全活動などを行い、社会に貢献します。

4 企業価値の向上に努め、長期安定的な成長により、ステークホルダーとの共存共栄を実現します。

5 グループ社員が相互に信頼し、協力し合って能力を発揮する職場をつくります。

6 適正な財務報告・情報開示と適切なリスク管理を行います。

【行動指針】

1 | お客さま（消費者）に対して

- 私たちは、卓越したデザイン・技術により、良質で心のこもった商品・サービスを開発・提供します。
- 私たちは、誠実で適切な営業活動を行います。
- 私たちは、わかりやすく正確で適切な表示、情報提供を行い、十分な説明責任を果たします。
- 私たちは、アフターサービス体制を整備し、迅速で的確に対応します。
- 私たちは、お客さまの個人情報を適切に利用し、厳重に管理します。

5 | 社会・環境に対して

- 私たちは、企業活動そのものが環境保全活動となるよう努力します。
- 私たちは、法令と社会的常識に基づいて行動します。
- 私たちは、官公庁、行政機関などと健全な関係を保ちます。
- 私たちは、反社会的勢力・団体からの不当な圧力に屈しません。
- 私たちは、地域社会の安全な生活に配慮し、地域社会と友好な関係を保ちます。
- 私たちは、事業活動を行うあらゆる地域において、社会貢献活動を積極的に推進します。

2 | 従業員に対して

- 私たちは、個人を尊重し、その成長を支援します。
- 私たちは、倫理的な行動を促す企業風土を育てます。
- 私たちは、国籍、人種、性別などによる差別を行いません。
- 私たちは、安全と健康に配慮した労働環境を保ち、さらに向上させるよう努めます。
- 私たちは、人権を尊重し、いかなる形であれ強制労働・児童労働は行いません。
- 私たちは、情報の重要性を認識し、情報セキュリティの確保に努めます。

4 | 株主（投資家）に対して

- 私たちは、長期的安定的な成長を通じ企業価値の向上に努めます。
- 私たちは、財務報告を含む経営情報を適時かつ適正に開示します。



3 | 取引先に対して

- 私たちは、取引先の決定にあたっては公正な基準と適正な手続により選定します。
- 私たちは、取引先と契約に基づく対等な関係を保ち、公正かつ自由な取引を行います。
- 私たちは、取引先と社会的常識の範囲内での節度ある関係を保ちます。

経営ビジョン・中期経営計画

ミサワホームグループでは、2006年8月に新たなステージに向かい確たる事業基盤を構築することを目的に、「中期経営ビジョン」を策定しました。また、2008年には、このビジョンを達成するための「中期経営計画」がスタートしています。

【中期経営ビジョン】

私たちミサワホームグループは
コーポレートスローガン・経営理念・行動指針に基づき

「お客さま満足の徹底追求」と
「時代をリードする発想力」で

「住まいのNO.1ブランド」を目指します。

ミサワホームの目指す「住まいのNo.1ブランド」とは、単に売上や利益といった計数面でトップになるだけではありません。住まいを思うときに最初に思い浮かべてもらえる企業、というのがNo.1ブランドたる意味合いであり、ミサワホームの思いです。「住まいのNo.1ブランド」を目指し、「QUALITY」「SATISFACTION」「PERFORMANCE」という3つの視点から、右に掲げる6つのターゲットを定めています。

住まいのNO.1ブランドを位置付ける6つのターゲット



【中期経営計画】

事業ポートフォリオの最適化

コア事業である戸建住宅事業に集中する当社グループの事業の見直しを行い、将来性が期待でき、今後市場の成長が見込まれるリフォーム事業や介護事業（シルバー事業）などの周辺事業へ経営資源を配分していくとともに、リスクファクターを共通にしない新規事業の立上げを検討するなど事業の多様化により、事業ポートフォリオを当社グループに最適なものに変更してまいります。当社グループはこれらの中長期的な視点に立った取り組みにより、景気回復後の新たな成長の実現を目指してまいります。

① 賃貸住宅、戸建分譲事業

② リフォーム事業

③ シルバー事業

④ 在来木造事業

事業構造の再構築

現在の厳しい環境においても着実に収益を計上するため、本社機能をスリム化するとともに、当社グループを挙げてのさらなるコストダウンの実施や人員削減により、固定費の圧縮を図ってまいります。また、工場を一部閉鎖するなど生産体制の見直しに取り組んでまいります。なお、これら事業構造の再構築にかかる費用につきましては、将来の戸建住宅縮小に見合う体制を確立するための必要かつ有益な先行投資であり、当期においても一部を事業構造改善費用として計上いたしました。

① 営業生産性向上

② 間接費削減

③ 直接費削減

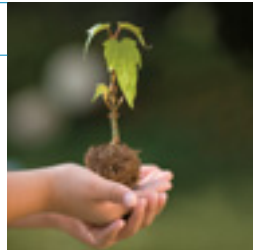
④ グループ組織の再編

4つの育む

ミサワホームは、お子さまの未来のために、環境保全から歴史的価値のあるまちづくり、安全・安心で健康的な暮らし、日本文化の継承など、広い視野で住まいづくりを考えた「4つの育む」をお約束します。

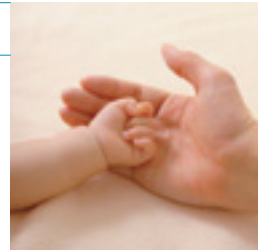
環境を育む

ミサワホームは、一步先のECO住宅の実現をお約束します。2010年度までの活動計画「SUSTAINABLE 2010」に基づき、「ECO・微気候デザイン」の標準化、次世代省エネルギー基準を超える高断熱性能の全棟標準化、ECO素材の活用や建物の長期耐久化、住宅のライフサイクルにおけるCO₂削減率20%（1990年度比）などの達成を目指しています。さらに太陽光や太陽熱、雨水・風力・地熱など、新しい自然エネルギーの活用をすすめます。



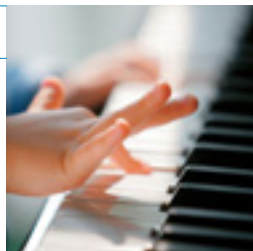
家族を育む

ミサワホームは、いつまでも安心して快適な暮らしを楽しめる住まいづくりをお約束します。増加傾向にある犯罪からご家族を守るため、先進のセキュリティシステムを拡充。家庭内事故も未然に防げる住まいづくりをすすめています。お子さまのすこやかな成長を促し、子育てをサポートする「キッズデザイン」の普及を推進。“休養・こころの健康づくり”ができる住まいの開発をすすめ、末永く健康的に暮らせる住まいづくりを推進していきます。



暮らしを育む

ミサワホームは、永く住み継がれる価値の高い住まいづくりをお約束します。200年暮らせる家を視野に入れ、何十年に一度の大地震にも耐える住まいを設計。制震装置の全棟標準装備も目指しています。住まいとまちに歴史的価値を与えるため、歳月とともに価値を高める美しい建物をデザインし、メンテナンスしながら住み継げる住まいづくりを推進。維持管理や保証内容の充実を図り、社会資産としての住宅再活用システムもすすめています。



日本の心を育む

ミサワホームは、日本人のアイデンティティを大切にする新しい暮らしをお約束します。モノを大切にする心を育て、ご家族の大切な品を継承する大収納空間「蔵」の普及を促進。自然の中で生きることや四季の移ろいを実感できる、先人の知恵「ECO・微気候デザイン」を設計します。「和の心」や地域特有の文化を再定義し、それぞれの風土に対応した住宅や暮らしを研究。日本を14エリアに分け、各地域に根ざした商品開発体制を整備します。



コーポレートガバナンス

ミサワホームは「住まいを通じて生涯のおつきあい」のコーポレートスローガンのもと、お客さま、株主はもとより従業員等事業活動に係わるすべての関係者の利益を重視し、コーポレート・ガバナンスの確立は極めて重要な経営課題と位置付け、企業経営の透明性と信頼性の確保に努め、企業価値の最大化と収益拡大に向けて、迅速かつ適正な経営に取り組んでおります。

■ガバナンス体制

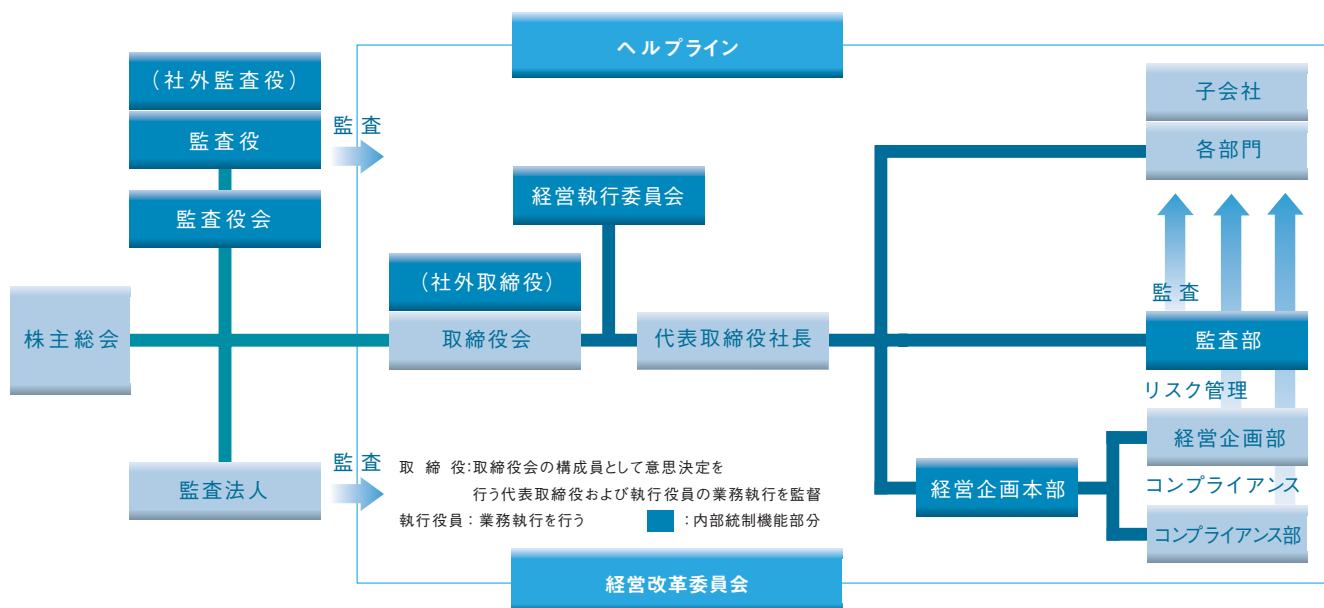
取締役会・経営執行委員会 当社は取締役会規程および職務権限規程により、経営に関する重要な事項については、取締役会の承認を経て業務執行しています。取締役会は2009年6月末現在、取締役10名で構成し、内2名は社外取締役として、取締役会の意思決定の過程の公正性とその決定内容の妥当性を確保しています。なお、取締役会の経営監督機能を補完するため、経営執行委員会規程に基づき執行役員及び監査役で構成する経営執行委員会を月1回以上開催し、迅速かつ適正な意志の決定を図っています。

監査役会 当社は監査役制度を採用し5名の監査役(内4名は社外監査役)からなる監査役会を設置しています。常勤の監査役1名は、経営執行委員会をはじめ重要な会議に出席し、社外の監査役と情報の共有に努めています。

経営改革委員会 当社は取締役、執行役員、従業員その他当社の業務に従事するすべての者に対し、法令及び定款に適合する行動はもとより、誠実で倫理的な行動をとることを求めて、内部統制システムを構築しています。その一環として、コンプライアンス及びリスク管理を含む内部統制に関する重要事項を審議するため、社長執行役員を総括責任者とし、常務

以上の執行役員および関係部長をメンバーとした経営改革委員会を2006年12月から設置しております。また、当社の子会社にも内部統制を審議する会議体の設置を求め、当社と共同してグループ全体の内部統制を確実にするためのマネジメントを実施しています。

その他の内部統制機能・体制 経営企画部は、各リスク別、各部門別の具体的なリスクの把握およびリスクのコントロールを図り、業務の適正と効率性を確保するために、各部のリスク管理を統括しています。また、コンプライアンス部は日常のコンプライアンス活動を統括管理し、コンプライアンス上のリスクマネジメントを実施しています。さらに業務執行部門から独立した立場の監査部を設置し、当社各部門及び当社の子会社を含めたグループ全体について内部監査を実施するとともに内部統制の有効性をモニタリングしています。また、2006年5月に「内部統制システム構築の基本方針」を取締役会で決議し(2009年6月一部改定)、「取締役の職務の執行が法令および定款に適合することを確実にするための体制」などをはじめとする10項目の基本方針を定め、ホームページ上に会社情報として開示しています。



コーポレートガバナンス

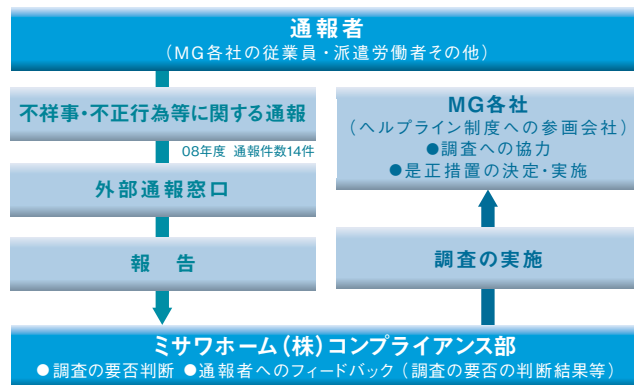
ヘルプライン ミサワホーム関係者が、グループ内における不祥事や不正行為などを見かけたり、起こしてしまった際に相談・通報を受け付ける制度です。不祥事の拡大防止や不正行為の是正などを実施し、グループの社会的信頼を維持することを目的としています。たとえば同僚や上司が不正を行っていた場合、誰に相談すればよいかわからないなどの悩みを解消するために設けられている制度であり、グループの自浄作用を促すものです。実名・匿名いずれでも通報できますが、実名の場合でも関係者に名前が漏れないように配慮しています。

■個人情報保護

ミサワホームは、お客さまのご信頼とご満足を第一に考えた企業活動を基本とし、お客さまその他の個人の方からお預かりする個人情報を大切に保護することを重要な責務と考えています。その責務を遂行するため、個人情報の保護に関する法律に基づき、プライバシーポリシーを定め、これに従って個人情報の取り扱いを行うことを、全社に徹底しています。また、お預かりした個人データへの外部からの不正なアクセス、個人データの紛失・破壊・改ざん・漏洩などへの危険防止に対する合理的かつ適切な安全対策を行っています。さらに

■コンプライアンス教育・研修

「経営理念・行動指針」を周知徹底させるため、「コンプライアンスガイドライン」と「コンプライアンスカード」を作成し、パート・派遣・契約社員を含むミサワホームグループ全社員に配布、さらにガイドラインは社内イントラネットにも掲載し閲覧可能としています。また、コンプライアンスの重要性と一人ひとりの役割を認識させるため役職員に対して階層別のコンプライアンス研修を実施。2008年度の実施状況は右記のとおりです。研修はコンプライアンスの必要性を理解させるものだけでなく、



従業員などに対しては、個人情報の取り扱いに関する規程を定め、ルールを明確にするとともにガイドブックを作成し、社内研修を実施して個人データの適切な管理の周知徹底に努めています。また、個人情報に関する事故が発生した場合は、その内容と経緯、対応方法と再発防止策などをホームページ上で開示しています。昨年はグループ会社において住所・氏名などのお客さま情報の盗難、紛失事故などが10件発生し、対象となるお客さまには直接、事実関係のご報告とお詫びを申し上げました。

ミサワホームグループ社長研修	1回実施・49社77名受講
----------------	---------------

ミサワホームグループ管理職研修	17回実施・695名受講
-----------------	--------------

入社時コンプライアンス研修	10回実施・488名受講
---------------	--------------

専門分野の研修でも、独禁法、不正競争防止法、製造物責任法、安全衛生法など、各分野で要求される関連法規制についてのコンプライアンス教育ガイドラインを定め、実施しています。

防火認定仕様と異なる住宅用防火戸を生産・販売した件

2009年2月、当社連結子会社の株式会社ミサワテクノが生産し、当社が販売している住宅用防火戸について、表面材の厚みや仕上げ材料の種類が防火認定仕様と異なる仕様のものがあったことが判明いたしました。

防火試験の結果、販売仕様では必要な防耐火性能基準を満たさないことが確認され、対象となるドアを使用した建物94棟、ドア数358本について、新仕様で防火認定を取得したものに全棟、無償で交換させていただいています。

2008年度CSR活動トピックス

お客さまと共に スマートスタイル 「SMART STYLE」シリーズのラインナップが充実

「SMART STYLE」ブランドは2007年10月に創立40周年記念として発売した、コストパフォーマンスの高い企画住宅。子育て世代向けの「SMART STYLE O」をはじめ、2008年度は都市近郊向けの「O-Mタイプ」、小屋裏利用の「O-Kタイプ」、アクティブシニア向けの平屋住宅「SMART STYLE A」、さらにゆとりや上質感を求めるミドルファミリー層に向けた「SMART STYLE G」とラインナップを拡充。シリーズ全体の累積販売実績は5,000棟を超えています。 ※2009年6月末現在



「SMART STYLE G Sタイプ」



「SMART STYLE A HIRAYA」



「SMART STYLE O Mタイプ」



「SMART STYLE O Kタイプ」

お客さまと共に ジェニアス ビキエア 明るく、広く、心地よい住まい「GENIUS Vikiair」を発売

夏を涼しく冬を暖かく暮らす日本の伝統的な知恵や工夫を、現在のデザイン・先進技術で再現。これをミサワホームでは、“ECO・微気候デザイン”として提案して、都市部に多い狭小地にも柔軟に対応した商品が「GENIUS Vikiair」です。目指した空間構成は「明るく・広く・心地よく」。狭小地での快適な暮らしを実現するため、天井の高い2階リビングや、雁行プランによる敷地の有効活用、軒の出ゼロ設計と桁落としによる高度斜線対応などを可能にしています。



お客さまと共に ハイブリッド エイディア エコロジー&エコノミーを徹底した「HYBRID ADEAR」を発売

「HYBRID ADEAR」は、「エコロジー&エコノミー」「カスタマイズ」「変わらない価値」をキーワードに、“いつまでも飽きのこないデザイン、ずっと快適・安心に暮らせるクオリティ”をスタンダードとすることで、家族が愛着を感じ、まちの資産価値を向上し、地球環境に貢献できるような、“永く愛せる家、永く愛される家”を目指しています。タタミコーナーやアウトリビングをLDKにプラスする「LDK+M」や、3タイプから選べる外観で、オリジナルの住まいを実現できます。



2008年度CSR活動トピックス

お客さまと共に **木質3階建共同住宅「Belle Lead Urban 3」**を発売

ベルリード アーバン

木質系住宅のすぐれた耐火性能をベースに防火規制をクリアし、かつ敷地を十分に活用できる仕様・設備・デザインを採用した都市型3階建賃貸住宅「Belle Lead Urban 3」。3階部分の外部階段・廊下をなくし、3階住戸の玄関を2階部分に設けて内階段で3階に上がる“2階建共同住宅にプラス1層”という新たな提案を盛り込みました。3階部分の建築コストを大幅に抑えられるだけでなく、3階の共有スペースも生じないため、その部分のメンテナンスが不要となります。



お客さまと共に **クリックで建てる家「MISAWA WEB DIRECT」**を開設

ミサワ ウェブ ダイレクト

<http://www.direct.misawa.co.jp>

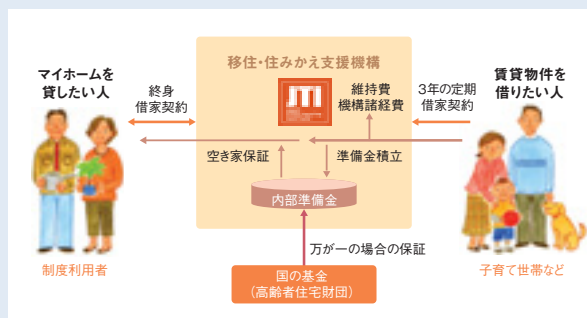
ミサワホームではホームページ開設以来、刷新を重ねるごとにネットの可能性を模索し、お客さまとの新たな接点を検討してきましたが、“工業化住宅”ならではのメリットを最大限に生かせる手法として、平屋タイプの企画住宅“SMART STYLE A*ウェブ・ダイレクトモデル”を対象に、ネット上で販売を開始しました。お客さまは、専用サイトでの間取りの変更、外観やパッケージ化された仕様・設備の選択によって価格を知ることができ、マイペースに住まいづくりを検討できます。



「MISAWA WEB DIRECT」ホームページより

お客さまと共に **「マイホーム借上げ制度」における業界初の「事前建物診断証明書」**を発行

ミサワホームは、一般社団法人「移住・住みかえ支援機構（JTI）」の「移住・住みかえ支援適合住宅制度」の適用を受けています。新築住宅は購入時に証明書の発行を受ければ、「マイホーム借上げ制度」を利用の際、建物診断は不要です。既存建物もあらかじめ建物診断を実施し、必要な補修工事を行った場合は「事前建物診断証明書」を発行、同様のメリットが受けられます。制度の普及を促進させることで、充実したセカンドライフの実現に貢献します。



「移住・住み替え支援機構」ホームページより

社会と共に

ベルリード カシーヤ ウィズ マザーズ

「Belle Lead Cassiya with Motherth」を発売

2015年には団塊の世代が高齢期を迎え、65歳以上の高齢者単独世帯は562万、高齢者夫婦のみの世帯は599万になると推計されており、高齢者向け施設や住宅などのニーズが高まると予想されます。高齢者向けの仕様・設備で、将来の介護も想定した「Belle Lead Cassiya with Motherth」は、このニーズにも十分応える商品です。将来にわたって継続した入居を見込めることから、土地オーナーの長期安定経営を可能にし、地域社会への貢献にもつながります。



※「日本の世帯数の将来推計」(平成20年3月/国立社会保障・人口問題研究所)

社会と共に

ミサワバウハウスコレクション「バウハウスの造形教育」展を開催

<http://www.bauhaus.ac>

モダンデザインの源流として今なお注目されているバウハウスは、造形教育にも革新をもたらし、世界に多大な影響を与えました。日本でも、さまざまな学校がバウハウスの教育を基礎にしていると言われています。21回目となる今回の企画展ではバウハウスの造形教育に焦点をあて、学生たちの習作を中心とした約90点の作品と多くのエピソードを元に、基礎教育の中心をになった教師陣や非常にユニークな授業を紹介しました。



「misawa bauhaus collection」ホームページより

社会と共に

19年連続でグッドデザイン賞を受賞

少子高齢化が進むなか、住まいの大きさのみならず、家族とのあり方、地域社会との繋がり方、老後の生活を見据えた住まいづくりが今まで以上に必要となってきました。平屋住宅「SMART STYLE A」と賃貸併用収入型住宅「Belle Lead HOME plus」が受賞したのは、こうした社会的なニーズをいち早く捉え、明確かつ適切なコンセプトにより企画・開発した姿勢が高く評価されたものと考えています。

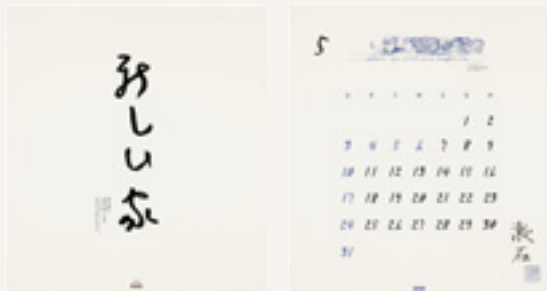


平屋住宅「SMART STYLE A」

2008年度CSR活動トピックス

社会と共に 第60回全国カレンダー展で「経済産業大臣賞」を受賞

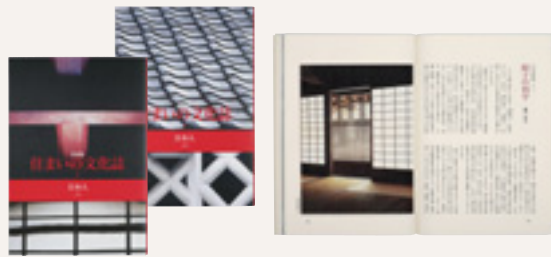
今回受賞した経済産業大臣賞は、「出品される全作品の中で企画、デザイン、印刷技術ともに総合的にすぐれた作品」に贈られるもので、全国カレンダー展での受賞は1988年の通商産業大臣賞以来、通算で11回目となります。また、今回は複数の審査委員の推薦で選ばれる「審査委員特別賞」も同時受賞。過去の偉人たちの功績を紹介して文化の発展に寄与するとともに、紙面をきっかけに親子コミュニケーションを育むお手伝いをしたいと考えています。



2009年版「偉人の生涯と筆跡カレンダー“新しい家”」

社会と共に 普及版住まいの文化誌『日本人(上・下)』を発行

ミサワホームでは、住まいを通じて暮らしのあり方を提案する、「新しい住文化の創造」を目指した出版活動を行っています。なかでも、著名文化人の書き下ろしエッセイと一流写真家による美しい写真で綴られた、人と住まいの文化の歴史を探求する「住まいの文化誌」(全17巻)は、住宅のつくり手という立場を生かして多角的な視点で編さん。この中の『日本人』を上・下巻に分け、読みやすい文字サイズ、持ち運びやすい大きさの体裁へ再編しました。



住まいの文化誌『日本人(上・下)』

社会と共に 第2回キッズデザイン賞を受賞

子どもの視点に立った商品開発や家の中での子どもの事故調査などを通して、住まいの工夫やアイデアを「キッズデザイン100」にまとめた新サイト「ミッフィーの子育てにいいうち」が、昨年に続き第2回キッズデザイン賞を受賞。子どもに親しまれているキャラクター“ミッフィー”を使用し、親子一緒にサイトを見ながら家づくりのノウハウを学び、子育て世代で住宅を検討中のパパ、ママの意見交換の場にも活用できるユーザー参加型のWEBサイトです。

<http://www.misawa.co.jp/kosodate>



「ミッフィーの子育てにいいうち」ホームページより

地球環境と共に リフォーム専用の「ECOエネシミュレーション」を開発

省エネタイプのアエアコンや照明の採用、断熱性能の強化、太陽光発電の設置などをご検討のお客さまが、家族構成や既存の設備などの簡単な入力で、リフォーム後のCO₂排出量や光熱費削減効果を算出する、ミサワホームオリジナルのシミュレーションソフトを開発。経済性、環境貢献度をアピールし、お客さまの環境意識を高めていただくツールとして活用しています。各電力会社の契約種類に応じた光熱費の設定で、地域性に合った計算結果の算出が可能です。



「ECOエネシミュレーション」

地球環境と共に 蒸暑地タイプの「次世代ゼロエネルギー住宅」試行棟が三重県に完成

昨年の北海道旭川市に続き、「次世代ゼロエネルギー住宅」の蒸暑地仕様試行棟を三重県亀山市に建設。寒い地域と暑い地域に建設することで、技術検証データを詳細に取得します。断熱性だけでなく、日射遮蔽性、通風・排熱性などの「微気候デザイン」を強化し、空調機器の消費エネルギーを最小限にしました。また、太陽光発電の搭載でエネルギー収支をゼロ以下とし、建設などで発生するCO₂もライフサイクルの中で回収できる住宅の実用化を目指しています。



「次世代ゼロエネルギー住宅」試行棟（三重県・亀山）

地球環境と共に 現場ゼロ・エミッションを目指し、環境省より「広域認定制度」の認定取得

広域認定制度とは、複数の都道府県にまたがり産業廃棄物を回収、処理することを許可される廃棄物処理法の特例制度です。廃棄物の広域的処理に関して一定の基準に達していることを条件に、環境大臣より認定されます。この認定に基づき、千葉県野田市に建設した「関東資源循環センター」を中心とする、関東エリア1都7県で資源リサイクルシステムを構築。ここでのノウハウを全国に展開し、全ての新築施工現場でのゼロ・エミッションを目指しています。



関東資源循環センター



HEART

深く信頼されるミサワホームをめざして

社会の責任ある一員として誠実に行動し、お客さまをはじめ、あらゆる人びとの「HEART」と深い信頼関係を築けるよう努めます。





HEART

お客さまと共に

ミサワホームグループは、すぐれた住まいづくりを通じてお客さまの満足度向上を追求します。

良質な商品の開発 ミサワホームの卓越した技術・デザインにより、良質な商品を開発します。

chapter.1

長期優良住宅への取り組み

■社会的資産としての住宅

2006年「住生活基本法」が制定され、住宅政策はフロー（新築）からストック（既存住宅等）重視へと大きく方向転換されました。また、2009年6月からは「長期優良住宅の普及の促進に関する法律」が施行されるなど、住宅業界には質を高め、長期にわたって使用し、社会全体の資産として活用できる住宅の開発が強く求められています。ミサワホームでは創業以来掲げてきた「住まいを通じて生涯のおつきあい」というコーポレートスローガンに基づき、業界に先駆けた長期保証制度の導入や、CHS住宅の認定取得、100年住宅の提案など、様々な住宅の長寿命化のための技術開発などに取り組んできました。これは、ご入居いただいたお客さまに末永く安心して快適にお住まいいただくための取組みで、「良質な住宅をつくり長期に使用する」という長期優良住宅の思想に合ったものです。これからは住宅を個人資産から社会的資産として捉え直すという、より大きな価値観を求められるようになります。新築時のお客さまだけでなく、世代を超えて様々な人々が引き継いで住まうことを前程に、既存住宅としてもその住宅品質を長く提供し続けることが必要と考えています。



■第2回超長期住宅先導的モデル事業に採択

「超長期住宅先導的モデル事業[※]」とは、『いいものをつくってきちんと手入れして長く大切に使う』というストック社会の住宅のあり方について、広く国民に提示し、技術の進展に貢献するモデル事業を国が公募し、すぐれた提案について提案者へ建設工事費等の一部を補助する制度です。2008年度は5月と8月の2回、公募が行われ、ミサワホームは2回目の公募において2部門で4つの提案が採択されました。採択理由は、ミサワホーム建物のすぐれた耐震性、耐久性、省エネルギー性といった基本性能の高さと、内装・設備などのインフィルを将来のライフスタイルやライフステージに応じて変えられる可変性の確保などのハード面に加え、住宅を長く住み継ぐため、維持管理や流通を総合的・持続的にサポートする『新・お客様サポートシステム』や『住まいのバリューアップシステム』など、ソフト面での新たな提案が評価されたものです。

部 門	プロジェクト名	提案の概要
住宅の新築（戸建）	ミサワホーム超長期住宅 ・育てる住まい（戸建） ・末永く住み継がれる住まい（戸建） ・持続的まちづくりのモデル（分譲）	耐震性、省エネルギー性能、流通促進等に関する総合的な提案
既存住宅等の改修	ミサワホーム超長期住宅 ・ホームイングモデル住み継がれる住宅への継続的改修の仕組み	自社物件に限らず、在来工法についても新築の基本性能相当の性能を実現する全面的な改修の提案

※「超長期住宅先導的モデル事業」は2009年度からは「長期優良住宅先導的モデル事業」と名称変更しています。

将来の安心をサポートする「移住・住みかえ支援適合住宅制度」

一般社団法人「移住・住みかえ支援機構」（JTI）が推進する事業として、50歳以上のシニアからマイホームを借上げ、子育て期の若い家族などに転貸することで安定した家賃収入を保証する「マイホーム借上げ制度」があります。この制度を年齢制限なし、建物診断省略など、条件

を緩和して利用できる「移住・住みかえ支援適合住宅制度」が創設され、ミサワホームはこれに関する覚書を業界で初めてJTIと締結。新築購入時に証明書の交付を受けたミサワホームの住まいは、将来この制度の適用が約束されます。



chapter.2

耐震+制震技術

■耐震性にすぐれた構造を採用するミサワホーム

1995年の阪神・淡路大震災では大きな人的被害が出ましたが、その原因の80%以上が倒壊した建物による窒息死や圧死だと言われています。壊れた家の多くは新耐震設計基準施行(1981年)以前に建てられた木造住宅で、柱や梁の接合部の脆さ、壁の少なさ、屋根の重さ、シロアリ被害や腐朽などが倒壊の主な原因でした。1981年以降の建築物は現在の建築基準法にもとづいて建てられてはいますが、欠陥住宅や構造強度が不明瞭な家、地盤強度自体の問題など不安要素は多くあり、地震対策は必ずしも万全とは言えません。ミサワホームの木質系住宅は、すぐれた耐力壁である木質パネル同士を面接合する「木質パネル接着工法」を採用。強固な一体構造を実現する「モノコック構造」となります。ハイブリッド系住宅はユニット工法による超高層ビルにも採用される「鉄骨ラーメン構造」。どちらもどの方向から荷重がかかって、全体に分散できる理想的な耐震構造です。



外力を分散して受け止める「モノコック構造」



鉄骨ユニットの接合部

その強さは、世界初の「実大3階建建物振動実験」(木質系)や「実大ユニット耐力実験」(ハイブリッド系)で実証済み。阪神・淡路大震災ではもちろん、創業以来マグニチュード7



実大3階建建物振動実験

を超える数々の大地震を経験してきましたが、建物の倒壊は一棟もありません。[※]住宅メーカーの責務として、すべての人が安心して暮らし続けられる、地震に負けない住まいづくりを推進しています。

[※]地盤に起因する被害は除く

■地震による変形量を約50%削減する制震装置「MGEO」^{エムジオ}

地震に強い住まいをさらに安心な住まいにするために、ミサワホームは地震の揺れを吸収して建物の変形量を約50%に抑える制震装置「MGEO」を開発しました。2004年に実施した実大振動実験では、13回の連続する巨大地震など合計39回もの加振を行っても、構造体の損傷ゼロはもちろん、内装仕上げ材にも目立った被害はありませんでした。地震で家が壊れないのは当たり前。地震後も安心して暮らせるように、内装仕上げ材の損傷ゼロまでも目指します。制震装置「MGEO」は、壁の内部に複合テコ原理を応用した独自の変位拡大機構と、初めて戸建住宅用として開発された「高減衰ゴム」をセットした制震ダンパーを組み合わせた構造でできています。「高減衰ゴム」は住友ゴムグループのSRIハイブリッド社が、カーレースの過酷な環境で培ってきたレーシングタイヤの開発技術を応用してつくられたものです。また、ハイブリッド系住宅用には「MGEO-H」、木造軸組工法住宅用には新築用の「MGEO-N」とリフォーム用の「MGEO-R」を開発しています。



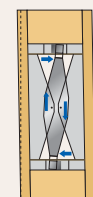
実大振動実験

耐震+制震「MGEO」の特長

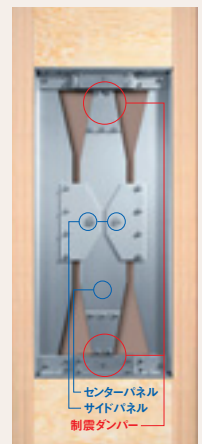
- 材質：アルミ製
- 地盤・敷地・プラン条件：特に条件なし
- 設置数：1階に2カ所
(X方向、Y方向に各1カ所)
※建築面積100㎡以下の場合。
- 効果：繰り返し何度でも効果あり
- 耐風性：暴風・台風などにも効果あり
- メンテナンス：基本的にメンテナンスフリー



制震ダンパー内の高減衰ゴム



制震装置概念図

◎'06グッドデザイン賞
制震耐力壁「MGEO」

■業界最高レベルのホルムアルデヒド対策を徹底

頭痛や目の痛み、アレルギー性のぜん息や鼻炎、皮膚炎などの体調不良を訴える「シックハウス症候群」。これは建材などに含まれるホルムアルデヒドやVOC(揮発性有機化合物)が主な原因物質とされています。健康被害が相次いだ結果、2003年の建築基準法改正時にホルムアルデヒドの発散量の種別や使用部位などが厳しく制限されるようになりました。ミサワホームでは、この法律改正の前からいち早くシックハウス対策に取り組んでおり、現在は床・壁・天井の仕上げ材はもちろん、天井裏までJIS・JAS規格の

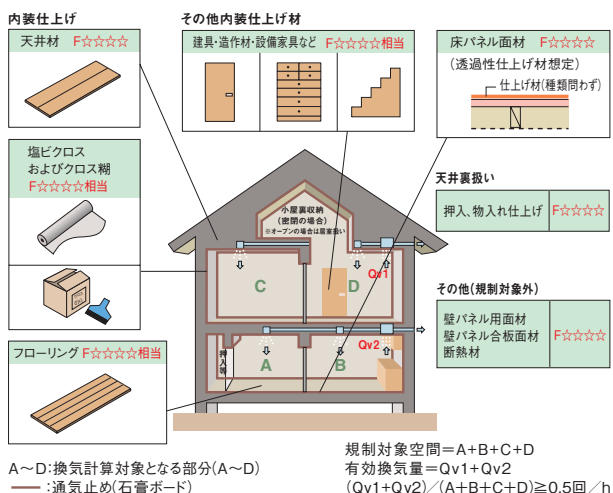
建築材料の区分	ホルムアルデヒドの発散	JIS、JASなどの表示記号	内装仕上げの制限
建築基準法の規制対象外	 少ない	F☆☆☆☆	制限なしに使える
第3種ホルムアルデヒド発散建築材料		F☆☆☆	使用面積が制限される
第2種ホルムアルデヒド発散建築材料		F☆☆	
第1種ホルムアルデヒド発散建築材料		旧E2、Fc2 又は表示なし	使用禁止

建築基準法における規制対象建材

木質建材(合板、木質フローリング、パーティクルボード、MDFなど)・壁紙・ホルムアルデヒドを含む断熱材・接着剤・塗料・仕上げ塗材など ※原則としてJIS、JASまたは国土交通大臣認定による等級付けが必要です。

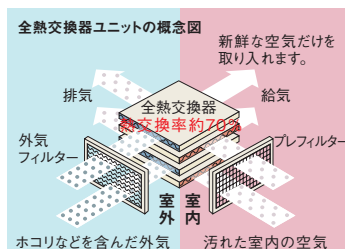
ホルムアルデヒド発散量基準でもっとも安全性が高い等級のF☆☆☆☆(フォースター)相当の建材を使用。また、接着剤にはトルエン、キシレンなどの化学物質を材料として含まないものを使用し、接着強度と安全性を両立。独自開発の内装仕上げ材「M-Wood」もノンホルムアルデヒドです。オリジナル家具にもF☆☆☆☆の建材のみを使用しています。

ミサワホームが現在採用しているホルムアルデヒド対策(木質系住宅)



■熱交換型24時間フロアセントラル換気システム

ミサワホームでは、業界に先駆けて1997年より「熱交換型24時間フロアセントラル換気システム」をすべての戸建住宅に標準装備しています。高気密設計を生かして住まい全体をひとつの空間のように換気することで、屋内の空気をスムーズに排出し、新鮮な空気を採り入れます。その際、給気と排気の間で熱交換を行い、冷暖房エネルギーのロスを最小限に抑制。0.5回/hという基準の換気量を確保しながら、換気



による実質熱損失は0.15回/h分(熱交換率約70%)です。室温に与える影響を抑えた換気が可能です。また、局所換気が必要な場所には、高い換気能力はもちろん、快適な暮らしを実現する換気計画をご提案。機能とデザイン性を兼ね備えたキッチンのシロッコファンや、センサー付パイプファンなど、適材適所に高性能な換気扇をご用意しました。

フロアセントラル換気システムの概念図

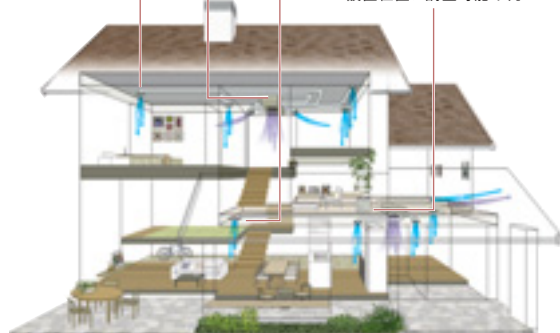
メンテナンスランプ付スイッチ
換気機能の強弱の調節と、ランプの点滅によりフィルターのメンテナンス時期をお知らせします。

換気システム本体+通気口
システム本体は天井にセットされスッキリ。本体の通気口からフロア全体の空気を排出します。

除菌イオンユニット(オプション)
給気口の代わりにセットすれば、フィルター通過では除去できない空気の汚れに対して浄化効果があります。浮遊するカビ菌やダニの糞などの悪影響を抑制。

給気口
1つの換気システムにつき4カ所設けます。各居室に設置。

給排気ダクト
天井裏にセットされて露出しません。換気口(排出口)と取り入れ口の設置位置は調整可能です。





chapter.4

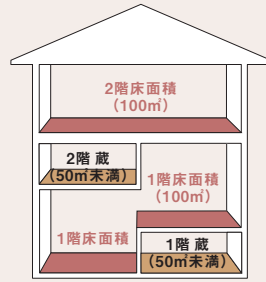
有効空間の拡大

■室内空間をヨコに広げる知恵

大収納空間「蔵」 あふれるモノをまるごとしまえて、居室をすっきり広びろ活用できます。^{※1}1階や2階の好きな位置に設置でき、複数設けることも可能。「蔵」は、設置階の1/2未満の面積で、天井高が1.4m以下という条件を満たせば、床面積に算入されません。^{※2}図のように1階と2階それぞれに「蔵」を設けた場合は、最大で1.5倍もの広さになります。

※1「蔵」は居室としての使用はできません。

「蔵」は、床面積の1/2まで容積率に不算入。
(図は延床面積200㎡の場合の例)

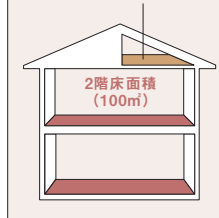


大収納空間「蔵」

小屋裏収納(小屋KURA) 小屋裏を収納スペースにします。2階の小屋裏を活用する「ロフトタイプ」と、1階の下屋部分の「居室出入り口タイプ」。「蔵」と同じ条件を満たせば、床面積に算入されません。^{※2}

※2 自治体により算入しているところもあります。

小屋裏収納(50㎡未満の例)



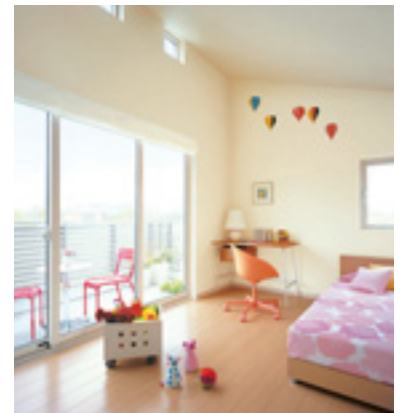
小屋裏収納

地下室 地下室自体を含めた延床面積の1/3までなら容積率に算入されません。書斎やAVルームなどに最適。

ビルトインガレージ 床面積の1/5までなら、容積率の対象外です。通常よりも広い家を建てられます。便利なガレージ収納も確保することができます。

■室内空間をタテに広げる知恵

多彩な屋根勾配・屋根形状と勾配天井・吹き抜け 厳しい斜線制限をかしこくクリアする「1/1勾配、1/2勾配、1/3勾配、2/3勾配」という4タイプの屋根勾配、バリエーション豊かな屋根形状により、それぞれの敷地の制限に対応し、上に住まいを広げます。また、小屋裏スペースを2階居室に取り込む「勾配天井」、強い構造体を実現した大きな「吹き抜け空間」などの内部空間づくりで、床面積の数字には表れない、タテに広いゆとりの空間をご提案します。



勾配天井

軒の出ゼロ・桁落とし どんな敷地条件でも対応するため、910mmからゼロまでの「軒の出」や一部の高さを低くする「桁落とし」をご用意。



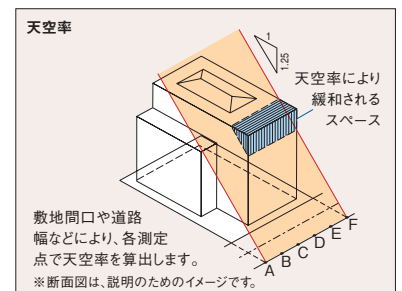
桁落とし

セットバック 道路斜線をクリアする方法に、道路から少し離れて家を建てるセットバックがあります。道路から1m後退するだけでも、高さを2.5mも上げられます。



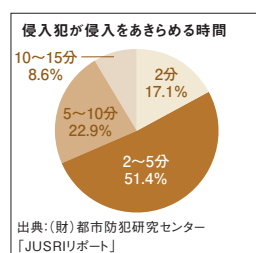
セットバック

天空率 天空率は、確保される採光・通風などのひとつの指標。計画建築物により確保される天空率が、現行の斜線制限により確保されるものの天空率と同程度以上の場合、斜線制限は適用されません(ただし日影規制、高度斜線制限は除く)。天空率により、柔軟な設計が可能となりました。



■高まる防犯対策ニーズ

かつては安全な国といわれた日本でも、防犯対策に対するニーズは高まる一方です。ミサワホームでは、これからお住まいを建築する皆さまに、「どんな家が狙われやすいか」をぜひご理解いただき、万全の対策を講じたうえで安心してお住まいいただきたい、と考えています。用意周到な侵入犯に対応するには、開口部やドアを中心に、あらゆる手口を想定した住まいづくりが欠かせません。二重、三重の慎重な防犯システムやアイテムの備えが大切です。また、侵入に5分以上かかるとあきらめる場合が多いという調査結果

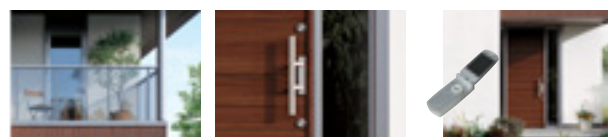


もあります。そこでミサワホームでは、「狙われにくい」「侵入しにくい」「被害の出にくい」という「3段階セキュリティ」をご提案。すみずみまで安心できる住まいを実現します。

狙われにくいセキュリティ 周囲からよく見える住まいこそ、空き巣が嫌います。エクステリアは見通しがきく生け垣などに。2階は、外から室内が見えない配慮はしながらも、バルコニーはきちんと見えるガラスなどの手すりが適しています。

侵入しにくいセキュリティ ガラス破りを防ぐため、特殊フィルムをはさんだ「防犯ペアガラス」を使用。そのうえで「錠開け」「破壊行為」対策のため、合わせガラスやピッキングに強い錠など、多彩な防犯配慮を実施しています。

被害の出にくいセキュリティ もし侵入を許しても、侵入者を警報音で威嚇するとともに音声で知らせるセンサー・受信機、すばやくご家族の携帯電話などへ連絡できるシステムなどをご提案。また、セキュリティBOXもご用意しています。



外から見通しのきくバルコニー 「錠開け」がしにくい玄関ドア 万一の際は携帯電話に自動通報

■ミサワホームは「2段階バリアフリー」

ミサワホームは、家族のニーズの変化に対応できるフレキシブルな「2段階配慮」のバリアフリー住宅をご提案しています。バリアフリーに配慮した設備を、必要が生じたときに随時付加していくという発想に基づき、新築の段階では後々の改築・改造を視野に入れた設計を施し、最小限の設備だけを付加してコストを抑えます。そして将来、バリア(障壁)が見えてきた時点で適切な設備を追加していきます。住む人の変化に合わせた「可変的」住宅といえます。

■玄関、廊下、階段のバリアフリー

ミサワホームがご提案する「幅広玄関」は、床段差を最小限に抑え、玄関框も上がりやすい高さに設定。玄関手すりもご用意しています。「幅広廊下」は、品確法の住宅性能評価で最高等級に相当する幅850mm以上を確保。ゆとりと安全を兼ね備えた設計です。また、「階段」は勾配を緩やかに設計し、つまずきやすい蹴込みを小さく調整するほか、手すりは途中で握り替える必要のない連続手すりを採用。夜間も安心のフットライトなどもご用意しています。



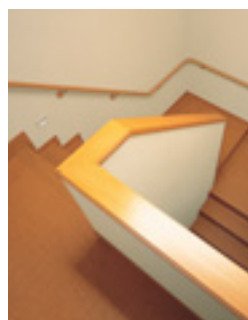
床段差を抑えた玄関



上がりやすい玄関框



幅広廊下



階段連続手すり



フットライト



良質なサービスの提供 万全のアフターサービス体制など、お客さまサービスの向上に努めます。

chapter.1

消費者志向優良企業表彰

■住宅業界で初めての受賞

ミサワホームは住まいと暮らしのよきパートナーであるために、つねにお客さまの視点に立って企業活動を進めています。構造体の20年保証を実現した「新築住宅保証」など業界をリードする保証制度や「365日・



24時間体制」など万全のサポート体制などが評価され、1997年、ミサワホームは住宅業界で初めて「消費者志向優良企業」に選ばれました。「消費者志向優良企業」表彰制度は1990年に発足し、消費者利益の保護に積極的で、消費者志向体制が整った優良な企業を経済産業大臣が表彰しています。お客さま満足を第一に考えるミサワホームの住まいづくりが、高く評価された結果といえるでしょう。

chapter.2

365日・24時間体制

■災害時待機体制

ミサワホームでは、緊急のご用件でもすみやかに対応し、迅速に処理できるよう「365日・24時間体制」でオーナーさまの暮らしを見守ります。また、不測の事態や万一の事故に対して、しっかりとした備えをしておくことも、オーナーさまへの大切なア



万一の際も安心の「365日・24時間体制」

フターサービスのひとつ。ミサワホームでは、たとえば台風が接近してきた場合、その規模や進路などの状況に応じて、工場、メーカー、ディー

ラー、指定工事店がそれぞれ24時間体制で待機。すぐさま適切に緊急体制がとれるようになっています。

■大地震にも安心の住まいと緊急対応

また大地震発生時は、建物の被害はなくても水道・電気・ガスなどのライフラインが寸断されたり、内装の軽微な損傷などが発生し、オーナーさまの生活に不便や不安を生じる可能性があります。ミサワホームでは災害発生時において、被災者の住生活と心身の安全・安心を一刻も早く確保することが住宅会社における社会的使命だと考え、速やかに現地対策本部を設置するなど、緊急対策について十分な準備体制を整えています。

chapter.3

お客様相談センター

■休日や夜間でのトラブルにも対応

ミサワホームにお住まいのすべてのお客さまを対象とした「お客様相談センター」を開設しています。販売・施工を担当するディーラー各社の休日及び夜間に対応するもので、これにより365日・24時間にわたるお客さまサポート体制が拡充。同センターはミサワホームで独自に構築されたシステムを活用し、コールデスクのコミュニケーターが受付・対応し、専門的な対応はサポートデスクが分担します。

■1時間以内対応・5日以内完了

2008年度は26,200件を受付。オーナーさまから給湯器や水洗金具のトラブルなど緊急対応を要するものを含めた修理依頼が41%、ご相談・お問い合わせが33%を占めています。ミサワホームではトラブル等への対応について原則として1時間以内対応、5日以内完了、7日以内には対応後の状況をお伺いする「いかがですかコール」の実施と、オーナーさまにご満足いただけるようなルールを定めています。

■3つの保証制度

ミサワホームでは「住まいを通じて生涯のおつきあい」をモットーに、住宅業界に先駆けて3つの長期にわたる保証制度を確立。「新築住宅保証制度」は、新築住宅の構造体、防蟻、防水および仕上げ・付属部品・設備に対して保証する制度です。住宅の品質確保の促進に関する法律では、基礎、床、屋根などの構造体に10年間の瑕疵担保責任が定められていますが、ミサワホームでは最長20年保証を実現。「維持管理保証制度」は、「新築住宅保証制度」による保証期間満了後も耐久診断(有償)および耐久工事(有償)を施すことで、構造体、防蟻および防水の保証期間を延長する制度です。さらに「既存住宅保証制度」では、既に保証が満了している特定の専用住宅に対しても、住宅の売買時など必要な場合に耐久診断(有償)および耐久工事(有償)の実施を条件に再保証を実施。再保証期間は耐久工事完了後より構造体10年、防蟻10年、防水5年間で。

■ご入居後の充実したサポート体制

安心の保証制度に加えて、ミサワホームではご入居後のサポート体制も充実しています。住宅お引渡し後6ヵ月目、11ヵ月目、23ヵ月目の「定期巡回サービス」では、メンテナンスのプロが住まいの状態をチェック。さらに5年目、10年目、15年目、20年目の「定期点検サービス」も無償で実施し、以後は5年ごとに有償点検を行っています。長期にわたる点検制度で、住まいの末永い安心を実現します。また、ご入居後の暮らしをより充実したものにしていただけるよう、ミサワホームのオーナーさま向けにさまざまな冊子を発行しています。住まいの維持管理方法を詳しくご紹介している「ホームケアハンドブック」や、安全にお住まいいただくための情報をまとめた「安全のしおり」、住まいに関するお役立ち情報を満載した「ミサワオーナーズクラブ」なども充実。ミサワホームのウェブサイト(ミサワオーナーズクラブ オンライン)にも、最新の「オーナーサポート」情報などが満載です。

新・オーナーサポートシステム

	2年	5年	10年	15年	20年	25年	30年	～ 50年	～ 100年	～ 150年	～ 200年
点検制度	● 6ヵ月目 ● 11ヵ月目 ● 23ヵ月目 (定期巡回)	● 5年目 (定期点検)	● 10年目 (定期点検)	● 15年目 (定期点検)	● 20年目 (定期点検)	● 25年目 (定期点検)	● 30年目 (定期点検)	5年ごとに継続が可能 (オーナーさま任意、有償)			
保証制度	構造体						延長可	新築住宅の保証は延長 [※] が可能。 既存住宅の保証は再保証・保証延長 [※] が可能。 ※耐久診断(有償)・耐久工事(有償)の実施が条件			
	防水						延長可				
	防蟻						延長可				
							延長可				

※定期点検(5年目以降)の対象は、平成11年7月1日以降お引渡しの建物となります。
※保証制度は平成12年4月1日以降ご契約されたオーナーさま向けの内容です。



定期巡回・定期点検サービス

■最新の住まいづくりを体感

ミサワホーム本館内(東京都杉並区)に、住まいの体験型施設「ミサワパーク東京」を開設しています。大地震の揺れを体感できる「地震シミュレーター」や「南極昭和基地の建物」をはじめ、独自の「ECO・微気候デザイン」や大収納空間「蔵」など、住まいづくりに役立つ先進の技術やデザインを体験できます。また、ミサワホーム岡山工場・福岡工場内にも同様の施設「ミサワファクトリー」を開設し、工場の生産ラインなどの見学とあわせてお楽し

みいただけます。さらに名古屋工場では、ハイブリッド住宅の工場見学「ミサワファクトリーツアー」を実施しています。



住まいづくりの新提案ゾーン



地震シミュレーター



chapter.6

ミサワホームイング

■リフォームをトータルにお手伝い

暮らしの快適リフォームを、トータルにお手伝いするのが「ミサワホームイング」です。住まい全体をまとめてリフォームする「まるごとホームイング」をはじめ、環境に配慮したリサイクル素材「M-Wood」による空間提案、在来木造住宅用の耐震・制震リフォーム「MGEO-R」、オーナーさま向けには環境に配慮した「リフォーム防蟻」など、ミサワホームイングならではの先進技術を活用して、ご満足いただけるリフォームをご提案。ミサワホームが工業化住宅で培った経験やノウハウを活かし、お客さまのご要望にきめ細かくお応えします。



MGEO-R制震装置 設置イメージ

■業界初のグッドデザイン賞を受賞



リフォーム事例(大阪府 Nさま邸)

「ホームイング」は「Home+ing」。愛着のある住まい(Home)を活かし、いつまでも現在進行形(ing)で手を加えながら、より快適な暮らしを実現しつつ、資産価値を高めていくことを意味しています。そのコンセプトや、ミサワホームの最新住宅のデザインを再現するリフォームシステム、環境に配慮した素材・工法・部品などが高く評価され、リフォーム業界では初となるグッドデザイン賞(2001-2002年)を受賞しました。

chapter.7

オーナーサービス

■専用サイト「オーナーズクラブ オンライン」を開設

インターネット上にオーナーさまの会員制サイト「オーナーズクラブ オンライン」を開設しています。暮らしに役立つ多彩な情報や、メンテナンスに関するお知らせなどを随時発信しているほか、各種ご相談窓口やオーナーさま同士の交流をお楽しみいただけるコンテンツなども充実しています。



MISAWAオーナーズクラブ

■充実のライフサポートサービス

ミサワホームでは、ご入居後のよりよい暮らしをトータルにサポートするサービス内容も充実しています。右の一覧のように8カテゴリー・30種類以上の生活・サービス特典を付け、すべてのオーナーさまにご提供しています。

トラベル・リゾートサービス セントラルスポーツ NIPPON RE/SOL ショッピング・コンビニエンスサービス iDC大塚家具 ホームファッショントリ 杜若園芸 ワンオンワン 船山 IDEMITSU COSTCO ハーモニック アカチャンホンポ	引っ越し・宅配サービス ヤマトホームコンビニエンス 日本通運 教養・教育サービス NHK出版 NHK学園 ニチイ 保険・セキュリティサービス ALSOX セコム・ホームセキュリティ あいあい損保 東京海上日動	ケア・福祉施設サービス 日本訪問歯科協会 Benesse ニチイ MOTHERTH 情報サービス BIGLOBE 資産維持・形成サービス DUSKIN 日本おもちゃ病院協会 ミサワホームイング MISAWA-MRD
--	---	--

(2009年5月末現在)



HEART

従業員と共に

ミサワホームグループは従業員の個性を尊重し、その成長を支援します。

労働環境の整備 従業員一人ひとりがいきいきと働ける労働環境を整備します。

ミサワホームの雇用状況(2009年3月31日現在)

従業員数 本社738名・連結9,837名
女性社員比率 本社133名(18%)・連結1,787名(18%)
障害者比率 24名(1.83%) ※本社のみ
非正規社員 289名 ※本社のみ

2009年度新卒採用 本社:男性8名・女性5名・計13名
連結:男性123名・女性76名・計199名
平均勤続年数 本社:男性15年・女性11年

chapter.1

人事評価制度

■新人事処遇制度の導入

2004年7月より、納得性の高い処遇を実現、社員のやる気・やりがいを高めることを目的とした「新人事処遇制度」を導入しています。ねらいは①社員のやる気を引き出し、組織を活性化する、②属人に依らない透明性のあるマネジメントを確立する、③連結経営の中で真のグループ人事管理を実現する、④個々の社員のキャリアを充実したものとする、の4つです。それらの実現のために「処遇の改革」「育成の改革」「配置の改革」「採用の改革」を掲げ、施策展開をしています。



■「業績評価」と「コンピテンシー評価」

ミサワホームの人事評価制度は「目標による管理制度(MESSE)」による「業績評価」と「コンピテンシー評価」で構成されています。「業績評価」については賞与査定にダイレクトに反映させる一方、その成果を持続的に発揮する行動についての「コンピテンシー評価」を行い、その両方を昇給査定・昇格選考に反映させることで、バランスのとれた評価を実現しています。「業績評価」は目標管理制度に基づき、半期の業績をその課題の難易度と達成度を測定・判定することで評価。「コンピテンシー評価」は、職務遂行を通じて実際に行われた行動について、まずは半期ごとに評価を行い、年度末において、職務要件に照らして総合的に判断し、最終的な通期評価(1年間)を行います。

chapter.2

社員育成制度の充実

■MG教育研修

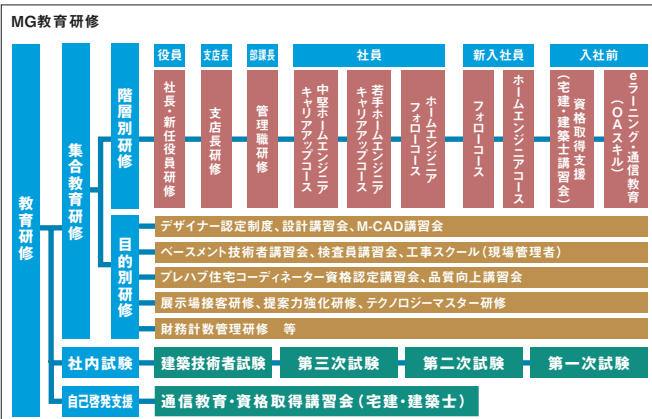


社員教育研修

ミサワホームでは「MG(ミサワホームグループ)教育研修規定」を設け、教育研修の基本的事項を定めています。この規定の基本方針は、グループ

社員の向上心と自己啓発意欲を喚起、助長し、各人が自ら人格の統治と資質の向上に努めるべく教育研修の機会を提供するとともに、現在および将来の業務上必要とされる知識・技能および態度を習得させ、グループの発展と社会的使命の達成に寄与する人材を育成することを目的としています。この規定に基づき、新入社員から経営者にいたる全階層に対し、それぞれに期待される知識・技能及び態度

などを習得させる「階層別研修」を導入。また、2007年度からは経営理念・行動指針の周知徹底を図るためにコンプライアンス研修を拡充し、一般社員・管理職はもとより、販売会社の社長を含めたトップに対しても研修を実施しています。



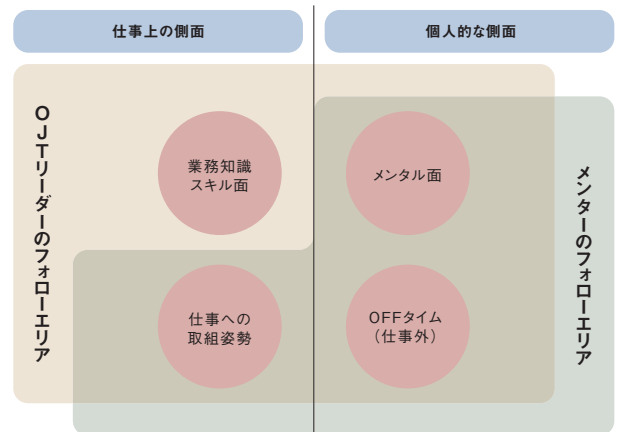


chapter.3

新卒者のフォロー体制

■OJTリーダー制度・メンター制度

新入社員に対する育成・フォロー制度を実施しています。同一部署内で業務を通じてマンツーマン指導するリーダーを任命し、業務面・精神面のフォローに当たってもらう「OJTリーダー制度」(2008年度は13名をリーダーに任命)、別部署のリーダー級人材に、主に業務・スキル以外の分野の相談相手になってもらい、社内コミュニケーションの補助や精神的な面での支えとする「メンター制度」(2008年度はメンティ13名に対しメンター12名を任命)です。多くの若手人材が新入社員に「かまう」ことで、フォローする体制を整えています。



chapter.4

満足度調査の実施

■MGモチベーションサーベイ

ミサワホームではグループ社員が仕事に対し、常に意欲的な気持ちで取り組むことができるよう、2003年より「従業員意識調査」を実施しています。これは社員の仕事や会社に対する意見・意識を直接的に確認することにより、今後の人事施策の参考として活用することと、社員のモ

チベーション阻害要因を早期に発見し、改善に努めるために実施しているものです。2005年からは「MGモチベーションサーベイ」として、対象を連結子会社を中心としたグループ企業全体に拡大して実施。この調査結果を通じて、LQ休暇制度の導入や、育児・介護支援制度の拡充などの職場環境の改善が図られています。

chapter.5

休暇・休業制度の充実

■LQ休暇

ミサワホームでは2005年より、従来の夏期休暇(3日間)と創業記念日(10月1日)をフレックス化し、これに有給休暇1日を加え年間を通じて任意の時期に取得できる「LQ休暇制度」を採用しています。「LQ」とは「Life Quality(生活の質向上)」と「Long(長い)休暇(Q)」を掛け合わせた造語で、個人の働き方、生活に合わせた休暇を充実させ、仕事と生活の質の向上を図ることを目的としています。この制度を利用することで土曜・日曜日の定休日と合わせて最大9日間の連続休暇の取得が可能となります。

■育児・介護支援

2006年に策定した「中長期経営ビジョン」の「100年サポートできる経営基盤」づくりの一環として、中期経営計画

では社員の永続的成長を積極支援し、企業成長の礎とするという人事戦略を掲げています。そのために多様な働き方を尊重し、ワーク・ライフ・バランスの確立を支援するための各種支援制度の拡充を図っています。2007年4月からは「育児・介護休業規定」を改定し、通常の育児休暇とは別に、育児を行う社員の「勤務時間の短縮の措置」の適用上限年齢を、「子が3歳に達するまで」から「満10歳到達後の3月31日(小学校4年生末)まで」に大幅に延長しました。また、この措置は育児以外でも、要介護状態にある家族を介護する場合にも適用が可能です。

制度利用状況(2008年度)

育児休業: 6名

介護休業: 0名

時短措置: 13名



HEART

取引先と共に

ミサワホームグループは取引先との共存共栄をはかり、対等な関係と公正かつ自由な取引を行います。

協力・教育・啓発 仕入先企業や施工工事店の方々とのコミュニケーションを推進しています。

chapter.1

仕入先企業との協力体制

■仕入先企業協会の「センチュリー会」

ミサワホームでは、オーナーさまにご満足いただける快適な住まいを提供するためには、新しい素材や機能を有した住まいの開発・品質管理・資源保護・環境保全などが極めて重要であると考えています。2006年度から現在まで、仕入先企業110社と相互に発展していくために「センチュリー会」を発足し、2008年度は5部会構成で活動を実施しました。活動テーマとしては、①環境負荷低減活動、②安全・

品質・CS向上、③現場生産性の向上を掲げ、より快適な住まいをご提供していくための企業活動を仕入先企業と協力のうえ、推進しています。



センチュリー会

chapter.2

施工店への施工教育

■施工品質を確保する作業員養成

ミサワホームでは、新規にミサワホームの工事を請け負う全国施工工事店の職方を対象に、ミサワホームにおける施工の基本知識の習得を目的とした工事スクールを実施しています。また、業種別における施工品質の確保を目的とした研修会を定期的に開催。ミサワホーム販売代理店では、社内規定で定められている検査・管理を実施した上で、社内基準・マニュアルに基づいた適切な施工方法を、現場ごとの現場作業員に対して指導・教育しています。その他、定期開催する施工工事店を集めた会議により、ミサワホーム

の新規技術、各工事店が持つノウハウ、さらに施工技術に関する情報を共有し、指導、教育の啓発活動を通じて、より高いスキルをもった作業員の育成が行われています。今後は、将来の施工力確保に向け、ミサワホーム、販売代理店、施工工事店が連携した教育体制、施工技能者の資格制度実現を目標に掲げ、さらに努力していきます。



工事スクール

chapter.3

安全大会・安全体制

■施工現場の安全を確保する活動推進

ミサワホームでは、施工現場での労働災害を撲滅するために、階層別教育をはじめ、安全パトロール、安全大会など、さまざまな活動を行っています。また、施工現場での安全意識を啓発するためのツールを適宜提供し、充実を図って

います。なお、従来の是正処置型安全活動から予防処置型の労働安全衛生マネジメントシステムによる安全活動への切り替えを検討しています。具体的には「P.D.C.A」サイクルの推進により、安全管理体制を構築し、年ごとに確実にレベルアップできる管理体制づくりを目指しています。中でも、マネジメントシステムの核となる「リスクアセスメント」への取り組みにより、危険・有害要因を調査し、軽減対策を実施し、リスクの除去及び施工現場での「危険低減活動」を継続して推進しています。



安全大会



HEART

株主(投資家)と共に

ミサワホームグループは企業価値の向上に努め、経営情報を適時かつ適正に開示します。

経営指標及び開示方針 経営情報の迅速かつ公平な開示に努めています。

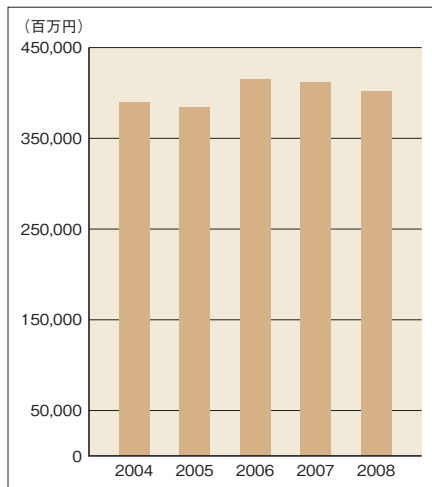
2009年3月期(2008年度)の連結経営成績は、売上高4,012億円(前年比2.0%減)、営業利益86億円(前年比11.3%増)、経常利益70億円(前年比8.9%増)となりました。昨秋以降の受注低迷により売上高は対前年を下回りましたが、販管費の削減などにより営業利益、経常利益ともに対前年を上回りました。但し、生産体制及び販売体制再構築に伴う特別損失の計上や繰り延べ税金資産の取崩しなどにより、当期純利益は4期ぶりのマイナスとなりました。

連結

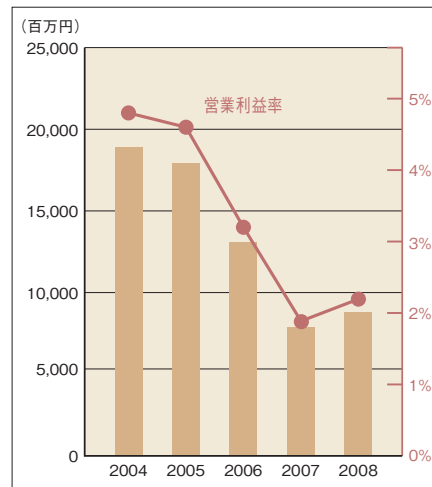
(百万円)

	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
売上高	389,595	383,941	414,566	409,245	401,204
営業利益	18,860	17,882	13,065	7,798	8,680
経常利益	11,463	14,564	12,069	6,430	7,001
当期純利益	▲203,251	124,024	191	389	▲2,983
売上高営業利益率	4.8%	4.6%	3.2%	1.9%	2.2%
売上高経常利益率	2.9%	3.8%	2.9%	1.6%	1.8%

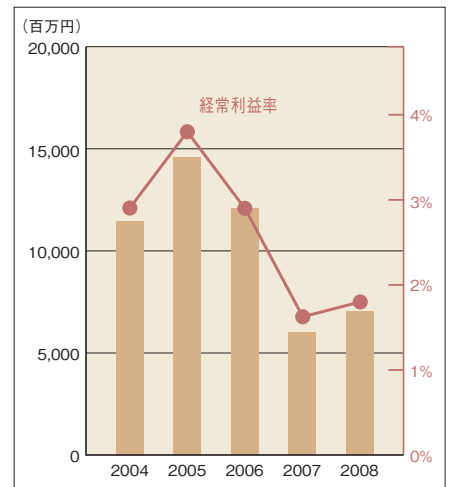
売上高



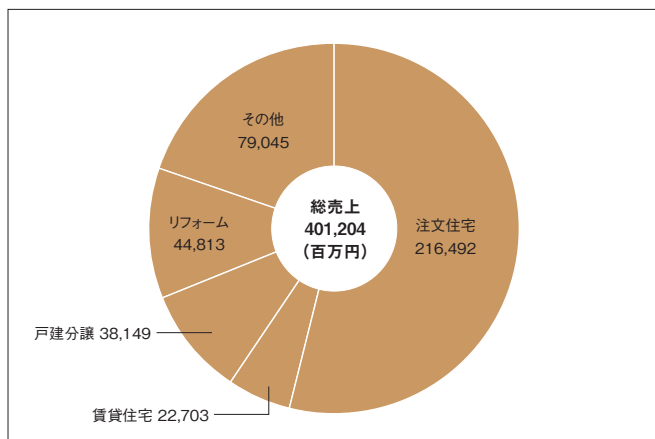
営業利益



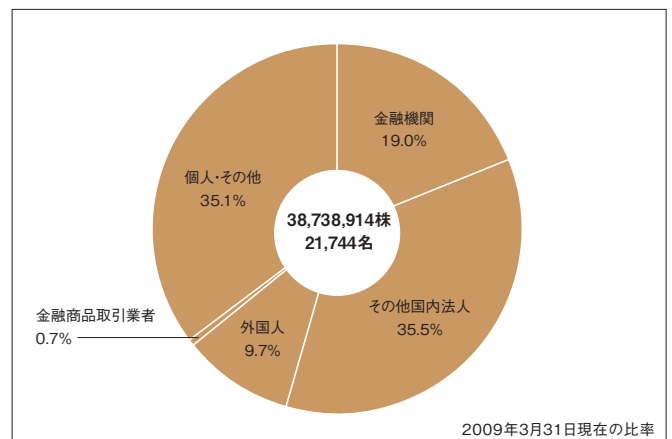
経常利益



2008年度セグメント別売上高



所有者別持株構成(普通株式)



■株主への配当方針

当社は安定配当の維持を基本としつつ、利益の状況と事業展開を総合的に勘案し、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としており、これらの決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当について

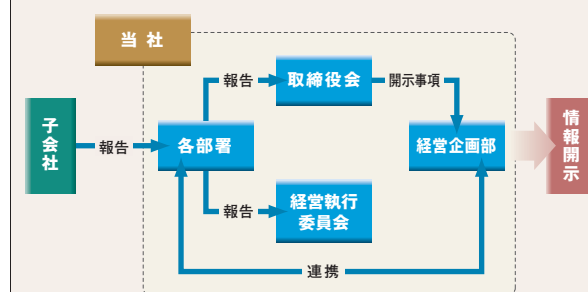
は取締役会となっています。なお、当社は取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として、会社法第454条第5項に規定する中間配当をすることができる旨を定款に定めています。また、2009年3月期の配当については、繰越利益剰余金が欠損となっているため、見送りとさせていただきました。

■適時開示に係る基本姿勢

ミサワホームはグループの経営ビジョンとして、「社会・お客さま・株主・従業員に満足を提供する」を掲げるなど、株主・投資家との信頼関係を構築・維持するために、重要な会社情報の適時適切な開示が極めて重要な責務であるとの認識に立ち、従来より鋭意適時開示に取り組んでいます。取締役会および経営執行委員会などで決定した事項や子会社および各部署で把握した事項のうち、金融商品取引法および東京証券取引所の定める適時開示規則により開示が要請される重要情報ならびに投資判断に影響を与えと思われる情報などについて、適宜開示活動に努めています。また、社長をはじめとした主要執行役員ら経営陣が、率先して説明責任を果たしています。開示活動の実際にあたっては、経営企画部が主管部署となり、子会社および関連部署と連携して速やかな

開示に努めています。ミサワホームグループの内部統制活動の監視・検証としては、監査役による監査のほか、弁護士など各分野における専門家の意見を参考にコンプライアンス体制の構築に努める中で、経営会議への報告を行うことにより、健全な業務執行の維持・向上に取り組んでいます。

適時開示に係る当社の社内体制等の状況



■IR情報の開示

ミサワホームでは、中間・期末の決算発表後に、機関投資家・証券アナリストの皆さまを対象とした説明会を開催しています。説明会にて頂戴したご意見・ご質問は、証券市場の声として真摯に受け止め、経営やIR活動に反映できるよう努めています。また、工場や展示場などの施設見学会を開催し、当社に対する理解促進を図るとともに、機関投資家・証券アナリストの皆さまと良好な関係を築いています。個人投資家の皆さまには、株主通信を年2回発送しています。さらに当社ホームページのIRサイトに、決算説明会で使

用したプレゼン資料や適時開示情報、英語版のアンニュアルレポートを掲載し、迅速かつ公平な開示に努めています。



IR説明会



アンニュアルレポート



HEART

社会と共に

ミサワホームグループはあらゆる地域で、社会資産をデザイン及びストックします。

まちづくり 人にも自然にもやさしい、快適に暮らせるまちづくりを通じて社会に貢献します。

chapter.1

優良な社会資産としてのまちづくり

住まいや土地の資産としてのあり方が見直されつつあるいま、環境に配慮した街が、その資産価値を高く評価されている例が多く見られます。環境が新しい価値を創造しています。ミサワホームでも、自然環境、医療環境、教育・文化環境、ショッピング環境、交通環境という5つの環境を大切に考え、優良な社会資産として受け継がれていくまちづくり開発を全国各地ですすめています。



マリナイースト21碧浜

①**自然環境** 自然の地形と植生をいかしながら環境づくりを行う、ランドプランニングを重視。電話配線や電柱は地下に埋設し、数十年後の街並まで想定した植栽計画を実施。一年中季節の花が楽しめる美しい環境と、人々が集うコミュニティの実現をめざします。

②**医療環境** 日本は世界有数の長寿国。健康で生き生きとした老後のためにも、医療環境の整備は欠かせません。近くに病院をつくり、病気になったときの往診や緊急時の対応を病院と契約したり、健康センターや介護施設などのインフラも充実させていきます。

③**教育・文化環境** 教育環境は、子育てのうえで重要な要素。周辺に幼稚園や小学校、中学、高校などの学校があるのはもちろん、学習塾や習い事場の場が豊富なことも大切です。また、図書館、美術館、コンサート会場など、生涯学習の視点からも環境を考えます。

④**ショッピング環境** 「住」と並んで「衣」「食」は、日常生活の基本条件。だからこそ、商店街やデパート、スーパーマーケット、コンビニなどは利用しやすい場所にあることが大切です。また利便性だけでなく、品質や品揃え、味や店の雰囲気といった点も重視します。

⑤**交通環境** 高速道路、新幹線、地下鉄などの交通網が現在のように発達してくると、時間距離が問題になってきます。都心から何キロメートル離れているかではなく、どれだけの時間がかかるのかという視点で、列車やバスなどの身近な交通環境から検討していきます。

chapter.2

五感にやさしいまちづくりの推進

歴史や気候風土に培われた、環境調和型のまちづくりに取り組んできたミサワホーム。将来にわたり住環境の優良なストック形成、個人の資産の保全などを目的として5つのテーマに基づいて、五感にやさしいまちづくりを推進し、その成果は数々の建設大臣表彰などの受賞として認められています。



京都桂坂



9年後



オナースヒル神戸学園都市



8年後

①**微気候デザイン** 風の流れや太陽の光を上手にコントロールして、快適に暮らしてきた日本の伝統的な生活の知恵を、現代の技術と融合させることによって、エネルギーの消費を抑えながら四季を通じて心地よい、健康的で地球にやさしい住環境をつくります。

②**エリアプランニング&プライバシーデザイン** まちづくりとは、1棟の住宅設計では実現できない豊かな住環境を創造することです。ミサワホームは「おもいやり設計」によってまちづくりを考え、自然の地形や気候特性をいかし、隣り合う建物同士が快適さを共有できるストレスのない住環境を創造します。

③**コミュニティ** ミサワホームは、そこに暮らす方々とともに作りあげることによって、まち全体がひとつの環境になることをめざしています。安全で安心な暮らしには、防犯配慮の外構設計をご提案。まちづくりを通して、地域のコミュニティをクリエイティブ(創造)します。

④**育てるまち** 年月を重ねるごとに味わいを深め、緑ゆたかに熟していく…。そこに暮らす人々とともに環境そのものが豊かさを増し、魅力的に成長する姿を「年輪美」と名づけ、将来にわたってその価値を高めていくことのできるさまざまな工夫を提案します。

⑤**オーナーズライフ** 愛着をもって育てられた住環境には、時間の経過とともに新たな環境価値が生まれ、その魅力もいっそう増していくものと考えています。そのまちに暮らすことを誇りに感じていただけるまちづくりに、ミサワホームは真剣に取り組んでいます。

ミサワホームは、先人の知恵と先端の技術を融合させて住まいと屋外環境にわたる住環境全体を設計することを“微気候デザイン”と名付けました。微気候とは、住まいとその周辺の局地的な気候のことで、夏涼しく冬暖かく変えることが可能。ミサワホームでは、この“微気候デザイン”の手法を導入したまちづくりに全国各地で取り組んでいます。

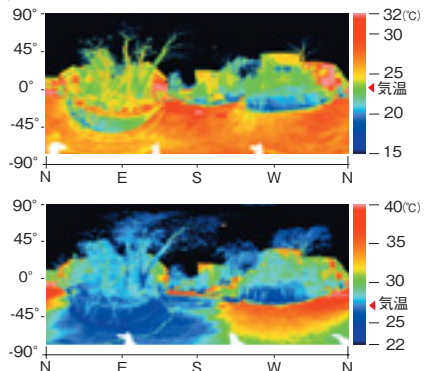
■宮崎台・桜坂

神奈川県川崎市宮崎台のなだらかな丘陵の上に自然に包まれるように住宅が配置された一角「宮崎台・桜坂」があります。敷地内の大きなサクラ、ケヤキ、ナラの木を縫うように戸建住宅がやわらかな街並みを構成して、ありのままの緑と地形を活かしたランドプランニングは、四季折々の自然が楽しめる良好な生活環境を創り出しています。ミサワホームではこの宮崎台における“微気候デザイン”の効果を東京工業大学大学院の梅干野研究室と合同で実測調査を行いました。赤外線放射カメラを用い、全表面温度シミュレーションによりスキャニングし、周囲にある物体の表面温度を捉えた結果、春と初夏のそれぞれですぐれた落葉樹による微気候効果を確認。また、宮崎台・桜坂は2001年に住宅地としてグッドデザイン賞、2004年に環境建築賞優秀賞を受賞しています。



宮崎台

春(上)と夏(下)の落葉樹による微気候効果



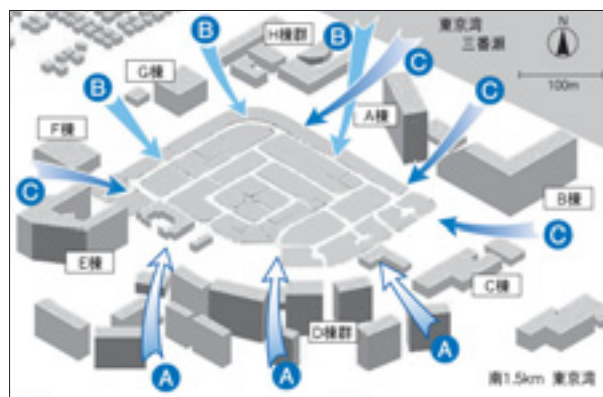
上／葉を落とした春の落葉樹による「日向ぼっこ効果」。地表面温度は気温より5度ほど高く、春のうららかなさを体感できます。下／葉を茂らせた夏の落葉樹による「緑陰効果」。樹木の日射遮蔽効果が明瞭で、日向との表面温度の差は約15度。

■マリナイスト21碧浜

千葉県浦安市の平坦な海浜埋立地にあり、周辺を中層建築物に囲まれているため、海風やビル風の影響を受ける立地条件でした。そこで、外周区画では海からの強い風をやわらげるため、家と家の間に常緑樹を密に植栽し、また風の流を読んで街路に計画的な植栽を行い、微風の流れるまちづくりを実現。夏に日差しを遮り、冬には葉を落として住まいに陽だまりをつくる落葉樹もバランスよく植栽するなど、外構造園まで一貫して考慮することで、自然のエネルギーの恵みを受けられるようになり、冷暖房の使用を抑えるなどエネルギー消費やCO₂排出量の削減にもつながっています。開発から5年が経過した時点で行ったオーナーさまへの住環境調査では、「緑」に対する評価が入居前より1.7倍も高くなっており、緑を計画的に植栽した住環境が入居後も高く評価されていることが分かりました。

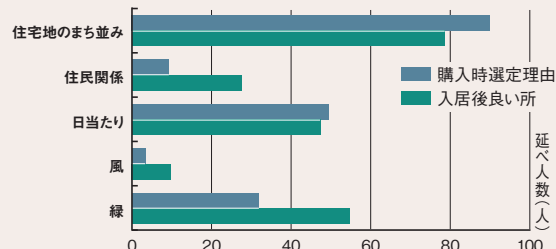


マリナイスト21碧浜



A 夏の風 B 冬の季節風 C 低気圧・台風風の風

「マリナイスト21碧浜」住環境のオーナーさまアンケート調査結果（ミサワホーム実施）





社会貢献 住まいづくりの企業として、科学、文化、福祉などさまざまな分野で社会に貢献します。

chapter.1

南極昭和基地

■昭和基地の建物の多くはミサワホーム

最低気温 -50°C 、風速 60m/秒 といった厳しい気候を設計条件とする南極の建物。極めて高レベルの断熱性・気密性・堅牢性などが求められます。ミサワホームでは1968年の第10居住棟以来、3階建の管理棟、2002年のNHKスタジオ棟など延べ約 $5,000\text{m}^2$ もの建物を受注。また、設営担当としてミサワホーム社員が越冬隊（第47次南極地域観測隊）に参加し、現地で活躍しました。厳しい環境で40年近くも続けてきた南極での建設は、ほかでは得られな

い貴重な経験です。ミサワホームは、極寒の地で鍛えられた先端技術を日本の住まいづくりにも活かしています。



南極昭和基地の建物の多くはミサワホーム

chapter.2

バウハウスコレクション

■充実のコレクションを収蔵・展示

1919年に設立されたドイツの造形学校「バウハウス」。インテリア、グラフィックデザインなどの斬新な作品群は近代工業デザインの源流とされています。ミサワホームはその理念と創作活動に共鳴し、総合研究所内に展示スペース「ミサワバウハウスコレクション」を開設。作品約1,500点、蔵書約13,000点、資料約1,200点に及ぶコレクションを収蔵しています。毎回異なるテーマで企画展を開催するほか、美術館への出展などを通じて広く公開しています。



充実のコレクションを収蔵・展示

chapter.3

出版活動（住まいの文化誌）

■住まいと暮らしをテーマにした出版活動

住文化のシンクタンク、ミサワホーム総合研究所では、住まいと暮らしをテーマにした出版活動を積極的に行っています。数あるなかで特に評価が高いのが、著名文化人による書き下ろしエッセイと一流写真家による美しい写真を融合し、人と住まいの文化の歴史を探究した「住まいの文化誌」シリーズ。「日本人」、「天災人災」、「健康人間学」など巻を重ね、1992年には出版物として初めての建設大臣（当時）表彰を受賞しています。この他にも多彩な書籍を

発行。「住まいの安全を考える本」や「子育て日和」など、住まいづくり・暮らしづくりに役立つ内容が盛りだくさんです。



「住まいの文化誌」シリーズ

ミサワホームは2000年の介護保険制度導入以前から、高齢者問題に正面から取り組むべく、ケア付き住宅事業に進出。介護専用型高齢者住宅「マザアス南柏」、グループホームや品川区高齢者複合施設「ケアホーム西五反田」をはじめ、さまざまなタイプの介護・福祉施設の事業運営を手



介護専用型高齢者住宅「マザアス南柏」



高齢者複合施設「ケアホーム西五反田」「さくらハイツ西五反田」

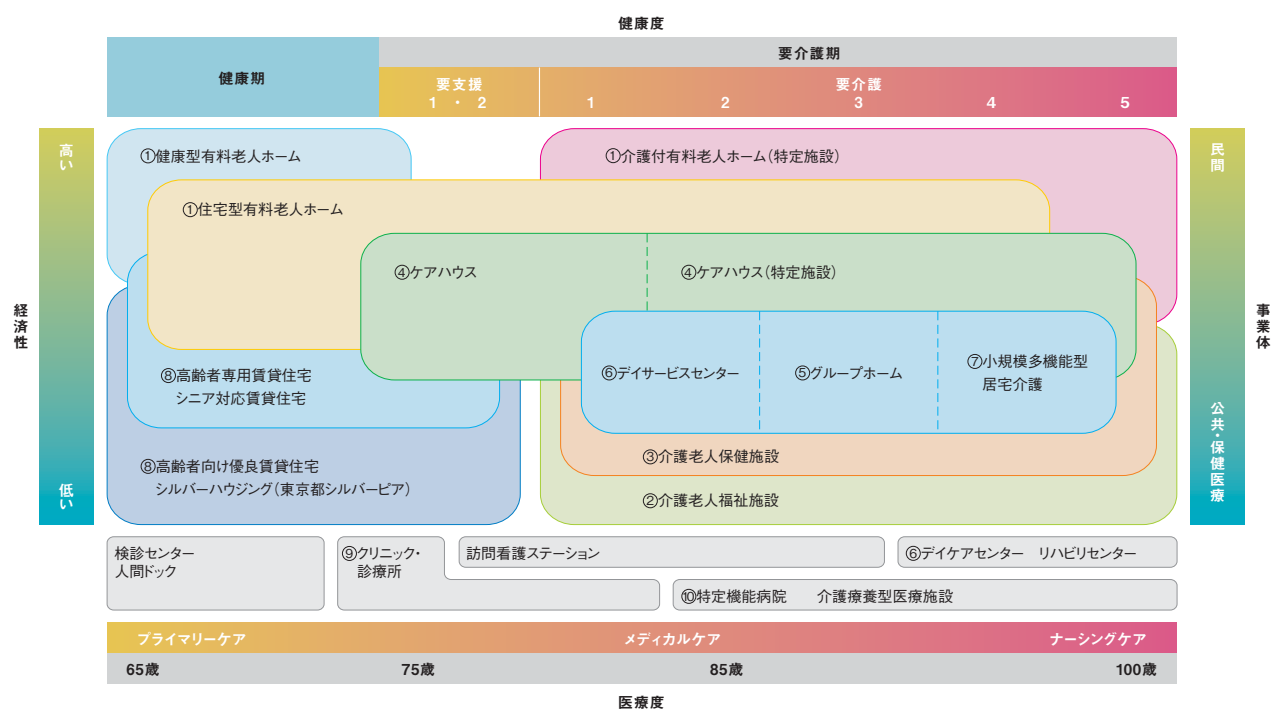
がけてきました。企画から建設・運営までトータルに対応できる経験を積み重ねています。

設計・施工 所轄行政庁へのヒアリング、各種調査などを行ったうえで市場を分析。土地オーナーさま、運営事業者さまのニーズと周辺ニーズにマッチした計画を立て、豊富な経験をいかして設計します。行政機関との協議・申請はもちろん、近隣との折衝、各種手続きなどまでトータルに行います。

入居募集 設計段階で実施したマーケティングをもとに、入居見込みの高齢者へのプレセールスから募集まで行います。数多くの介護・福祉に関わる入居募集・営業経験をいかして、トータルな戦略を立案、展開します。

豊富な直営実績によりノウハウをトータルに提供 介護・福祉事業は命を預かる仕事だけに、何よりも経験が重要になります。直営実績の豊富なミサワホームが蓄積してきたノウハウを、介護・福祉事業の成功と入居者への手厚いサービスのために提供します。

ミサワホームが取り組む10の介護・福祉事業



①有料老人ホーム (健康型／住宅型／介護付)
介護や食事等のサービスが付いた高齢者向けの居住施設です。日常生活や療養上の世話・機能訓練を行います。

⑥デイサービスセンター／デイケアセンター
食事・入浴などの介護サービスや機能訓練を日曜りで提供する施設です。デイケアセンターではリハビリテーションも受けられます。

②介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)
常時介護が必要で、家庭での生活が困難な場合に入所し、入浴・食事等の介護、機能訓練などを行う施設です。

⑦小規模多機能型居宅介護
在宅での生活継続を支援する地域密着型施設。「通い」を中心に「泊まり」や「訪問」を組み合わせてサービスを提供します。

③介護老人保健施設 (老人保健施設)
リハビリ中心の医療ケアと介護が必要な場合に入所。病院と家庭の中間にあり、家庭復帰を容易にするための施設です。

⑧高齢者向け優良賃貸住宅／シルバーハウジング
安全で安定した居住を高齢者に確保するため建設された優良な賃貸住宅。国・地方公共団体が助成を行います。

④ケアハウス (軽費老人ホーム)
60歳以上で独居して生活するのに不安がある方が入所し、食事や入浴のサービスが利用できます。

⑨クリニック・診療所
老人ホームやグループホームなどと連携して、高齢者の健康を医療の面からトータルにサポートします。

⑤グループホーム (認知症対応型共同生活介護)
5～9人を生活単位として認知症の高齢者が家庭的な環境の中でスタッフの援助を受けながら、共同生活を送ります。

⑩特定機能病院・介護療養型医療施設
特定機能病院は、高度医療の大学病院。介護療養型医療施設は、長期療養が必要な要介護者にサービスを提供。

EARTH

地球にやさしいミサワホームをめざして

住まいという居住環境はもちろん、「EARTH」という地球環境まで視野に入れ、企業活動そのものが環境保全活動となるよう努めます。

ミサワホームグループの環境への取り組み

ミサワホームでは1997年に住宅業界初のISO14001認証を取得し、同時に「環境宣言」を公表しました。以降、その宣言に基づき、さまざまな環境活動を展開してきました。そして2006年度から2010年度までの5ヵ年で達成すべき環境目的・目標を定めた環境活動計画を「SUSTAINABLE 2010」として策定。この計画に基づき、グループ一丸となって環境活動を展開しています。

環境宣言

【理念】

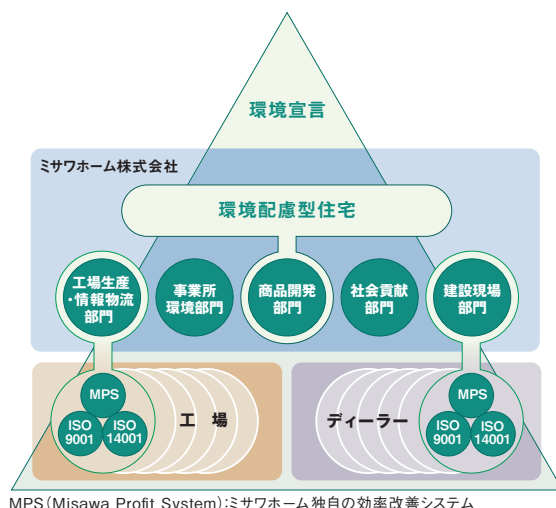
私たちミサワホームは、最も基本的な生活単位であり、人間形成の場である住まいを提供する企業として、住宅という居住環境はもちろん、街という生活環境、そして広くは地球環境までを視野に入れ、企業活動そのものが環境保全活動となるよう努めてまいります。

【行動指針】

- 1 ミサワホームグループの一人ひとりが地球環境問題の重要性を認識し、環境保全における自らの役割を考えながら行動します。
- 2 商品開発にあたっては、研究、開発、購買、生産、流通、使用（生活）、廃棄等の各段階において環境への影響を考慮し、より良い住まいづくりを追求します。
- 3 工場生産部門では、環境関連法規を遵守し、省資源、省エネルギー、廃棄物の削減に努めるとともに、自主管理基準を設け地域環境に配慮した生産活動を推進します。
- 4 現場生産部門では、周辺環境に配慮し、車輛運搬も含めた施工の合理化・効率化、建設廃棄物の低減を図り、より環境負荷の少ない施工システムを導入します。
- 5 環境保全に関連するイベント等への参画及び研究活動への協力・支援を行い、広く社会とのコミュニケーションを図ります。
- 6 社員全員への環境研修を徹底し、地球規模の視点に立った環境保全活動によって、社会に貢献できる人材を育成します。



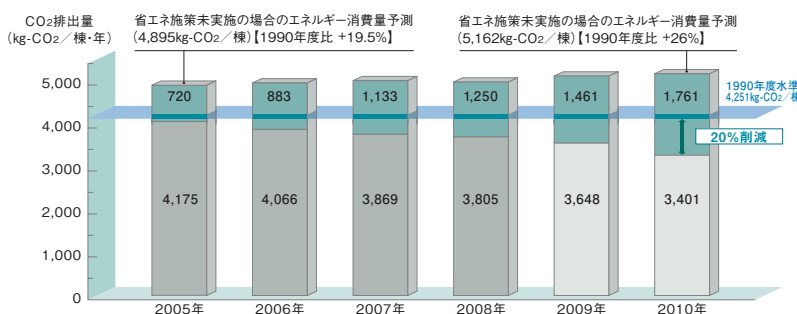
- 1 **CO₂削減**
住宅のライフサイクルにおける二酸化炭素排出量を1990年度比20%削減します。
- 2 **資源の有効活用**
地球環境における資源の有効活用を図るため、環境配慮素材の活用や建物の長寿命化・長期耐久化を促進します。
- 3 **ゼロ・エミッション**
2010年度までに工場・現場におけるゼロ・エミッション化を達成します。
- 4 **健康配慮**
室内環境汚染原因物質を削減し、健康に配慮した住宅を供給します。
- 5 **まちづくり**
人と自然が共生し、資産価値の高いまちづくりを促進します。



「SUSTAINABLE 2010」は、住まいのさらなる省エネ化の実現を推進しています。

ミサワホームが供給する新築住宅の、居住段階・工場生産段階・輸送段階におけるエネルギー排出量の削減を行い、CO₂排出量を1990年度比20%の削減を目指します。

CO₂削減シミュレーショングラフ



ミサワホームの環境会計

ミサワホームでは、環境保全対策に関わる費用とその効果を定量的に把握・分析するため、環境会計を2000年度より導入してきました。継続的かつ効果的な環境経営をめざし、ステークホルダー（一般消費者、取引先、投資家、NGOなど）の方々への情報開示を推進しています。

2008年度も昨年度に引き続き、環境省発表の「環境会計ガイドライン（2005年度版）」を参考に算出し、環境保全活動とそのコスト・効果をより明確にするため、当社独自の集計項目（経済的效果・CO₂削減効果）を加えています。

ミサワホームの環境保全コストおよび効果

項目	環境保全コスト(百万円)			効果	
	ミサワホーム	工場		経済効果 (百万円)	CO ₂ 削減効果 (t-CO ₂)
		木質※	セラミック		
	設計・開発	生産			
事務所活動	8	—	—	3	105
公害防止	—	164	41	—	—
省エネルギー・創エネルギー	889	4	1	946	17,755
省資源		192	—	552	1,679
新素材・リサイクル		70	8	—	8,569
長期耐久性		—	—	—	205
健康な居住環境	—	—	—	—	—
自然環境	11	6	13	—	—
廃棄物(工場・現場)	84	29	13	20	61
環境マネジメントシステム		32	7	—	—
合計	992	497	83	1,521	28,374

集計対象

会計対象期間
2008年4月～2009年3月

会計対象範囲
ミサワホーム株式会社（本社・本館・LACビル）
ミサワホーム工場15工場（木質工場14工場、セラミック工場1工場）

集計方法
環境省発行の「環境会計ガイドライン」の基準に沿って算出、当社独自の項目で集計

環境投資
環境保全に係る新規投資は、木質工場が33百万円で、セラミック工場が95百万円。
ミサワホーム株式会社における投資はありませんでした。

経済効果
実質的效果及び推定的効果を計上。
実質的效果…環境保全活動の結果得られた節約益、有価売却益を計上。
推定的効果…環境保全活動が寄与したとみなされる付加価値等、仮定的な計算に基づく効果を計上。

CO₂削減効果
環境目的・目標の実績をもとに環境活動評価プログラム(環境省)およびエコアクション21
(社団法人プレハブ建築協会)のCO₂排出量の算出方法により計上。

※木質部品工場(3工場)を含む

■2008年度集計結果について

2008年度ミサワホームグループの環境保全コストは、「ECO・微気候デザイン」を取り入れた商品及び「次世代ゼロ・エネルギー住宅」の技術開発などで15億7,200万円となりました。環境保全効果については、企画商品の拡充や太陽光発電システム及び高効率設備機器の普及によるCO₂削減に取り組んだ結果、経済効果(みなし含む)は15億2,100万円となり、前年の3億2,800万円に対し大幅に向上しました。CO₂削減効果についても、28,374t-CO₂となり前年度の20,115t-CO₂に対し41%向上しました。環境保全コスト当たりのCO₂削減指数は18t-CO₂/百万円となり、前年度比約2%アップとなりました。

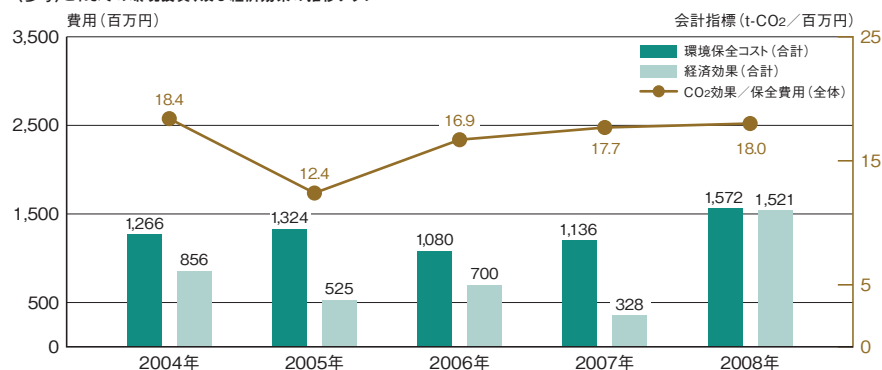
(参考) 環境省 環境会計ガイドラインによる集計

単位:百万円

環境省ガイドライン集計項目		ミサワホーム (本社・本部)	ミサワホーム工場			
			木質工場※		セラミック工場	
			投資額	費用額	投資額	費用額
(1)生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト(事業エリア内コスト)	①公害防止コスト	0	18	164	67	41
	②地球環境保全コスト	0	5	4	0	1
	③資源循環コスト	8	10	291	0	21
(2)生産・サービス活動に伴って上流又は下流で生じる環境負荷の抑制コスト(上・下流コスト)		0	0	0	0	0
(3)管理活動における環境保全コスト(管理活動コスト)		65	0	32	0	7
(4)研究開発活動における環境保全コスト(研究開発コスト)		900	0	0	0	0
(5)社会活動における環境保全コスト(社会活動コスト)		19	0	6	28	13
(6)環境損傷に対応するコスト(環境損傷コスト)		0	0	0	0	0
小 計		992	33	497	95	83
合 計			投資額	128	費用額	1,572

※木質部品工場(3工場)を含む

(参考) これまでの環境投資、及び経済効果の推移グラフ





ミサワホームの環境マネジメントシステム

環境方針

ミサワホーム株式会社は、ミサワホームグループ環境理念を踏まえ、商品開発及び事務所内活動を以下の方針に基づいて行います。

1 当社の活動、製品、サービスにかかわる環境影響を的確に把握し、この環境方針達成のため、
中期的な環境目的と年度環境目標を設定し、定期的な見直しを行うことで環境管理システムの質の継続的改善を図ります。

2 商品開発において、設計、開発、購買、生産、流通、使用(居住)、
廃棄物処理の各段階で継続的改善を行い、環境負荷低減・健康を考慮した住まいづくりを推進します。

3 住まいを通じて、気候風土や生物環境にも配慮して地域の特性を生かし、環境に配慮した美しいまちづくりを推進します。

4 事業所内活動において、資源の有効活用を図るため、使用エネルギーの効率的活用及びリサイクルの推進に努めます。

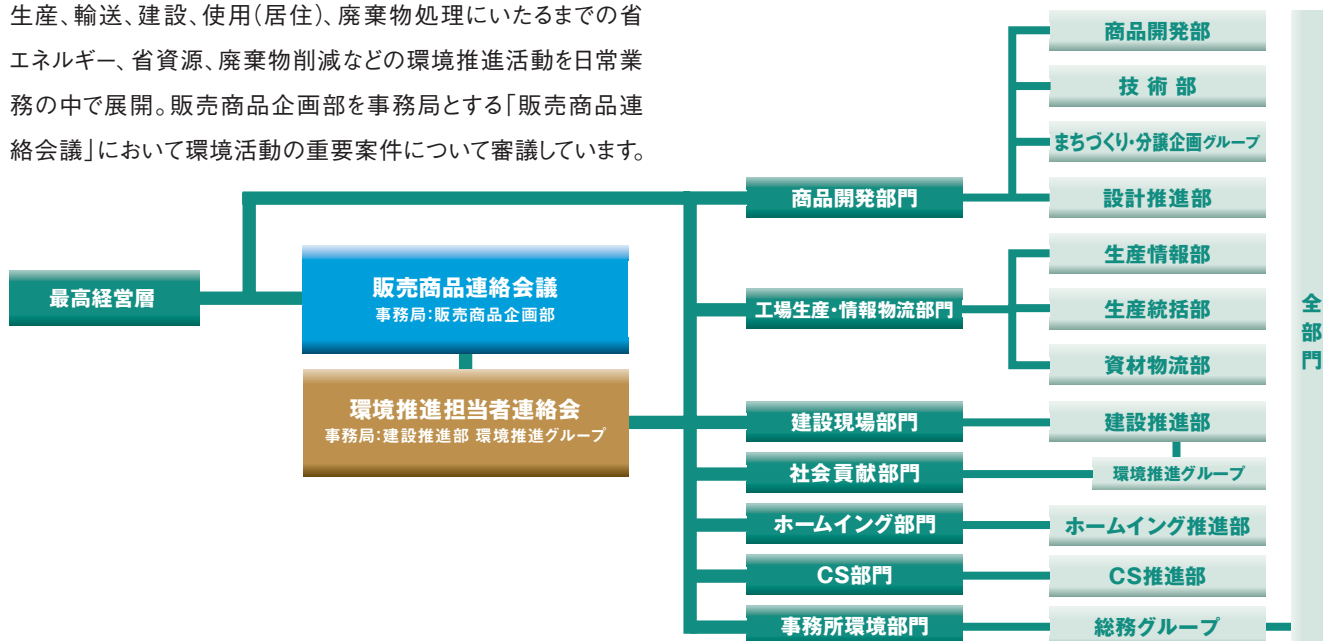
5 当社の活動、製品、サービスにかかわる環境関連の法律及び当社が同意する要求事項を厳守します。

6 環境保全、社会貢献などの協働活動の機会を通じて当社にかかわる方々との環境パートナーシップを強め、
環境方針や当社の環境推進活動をインターネット等を通じて公開することなどで、広く社会とのコミュニケーションを図ります。

7 全従業員に環境教育を行い、この環境方針を理解させるとともに地球規模の視野に立った環境保全活動に貢献できる人材を育成します。

■環境活動の推進体制

生産、輸送、建設、使用(居住)、廃棄物処理にいたるまでの省エネルギー、省資源、廃棄物削減などの環境推進活動を日常業務の中で展開。販売商品企画部を事務局とする「販売商品連絡会議」において環境活動の重要案件について審議しています。



■ISO14001 認証取得

1997年、(株)ミサワテクノ・ミサワホーム松本工場が業界初の環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001認証を取得以来、商品開発部門から生産工場、関連会社にいたるまでグループ全体で認証取得を行い、現在、ミサワホーム本社・本館、14工場及び関連企業2社が取得しています。また、内部・外部監査等を通して事業活動の継続的改善に努めています。

ISO14001認証取得工場・会社一覧

工場・会社.....取得年月日		
木質工場	松本工場.....1997年6月13日	木質工場
	福岡工場.....2000年7月1日	
	静岡工場.....2000年8月1日	
	沼田工場.....2000年12月1日	
	岩手工場.....2001年1月1日	
	梓川工場※.....2001年2月1日	セラミック工場
	福井工場.....2001年3月24日	
	山梨工場.....2001年3月24日	本社・本館・LACビル
		関連会社
		磯原工場.....2001年4月20日
		島根工場.....2001年6月21日
		札幌工場.....2001年8月23日
		岡山工場.....2003年5月31日
		駒ヶ根工場※.....2007年5月26日
		名古屋工場.....2001年3月31日
		商品開発を含む全部門 1999年2月4日
		ミサワホームフィンランド 1999年12月4日
		ミサワホームイング多摩 2006年12月9日

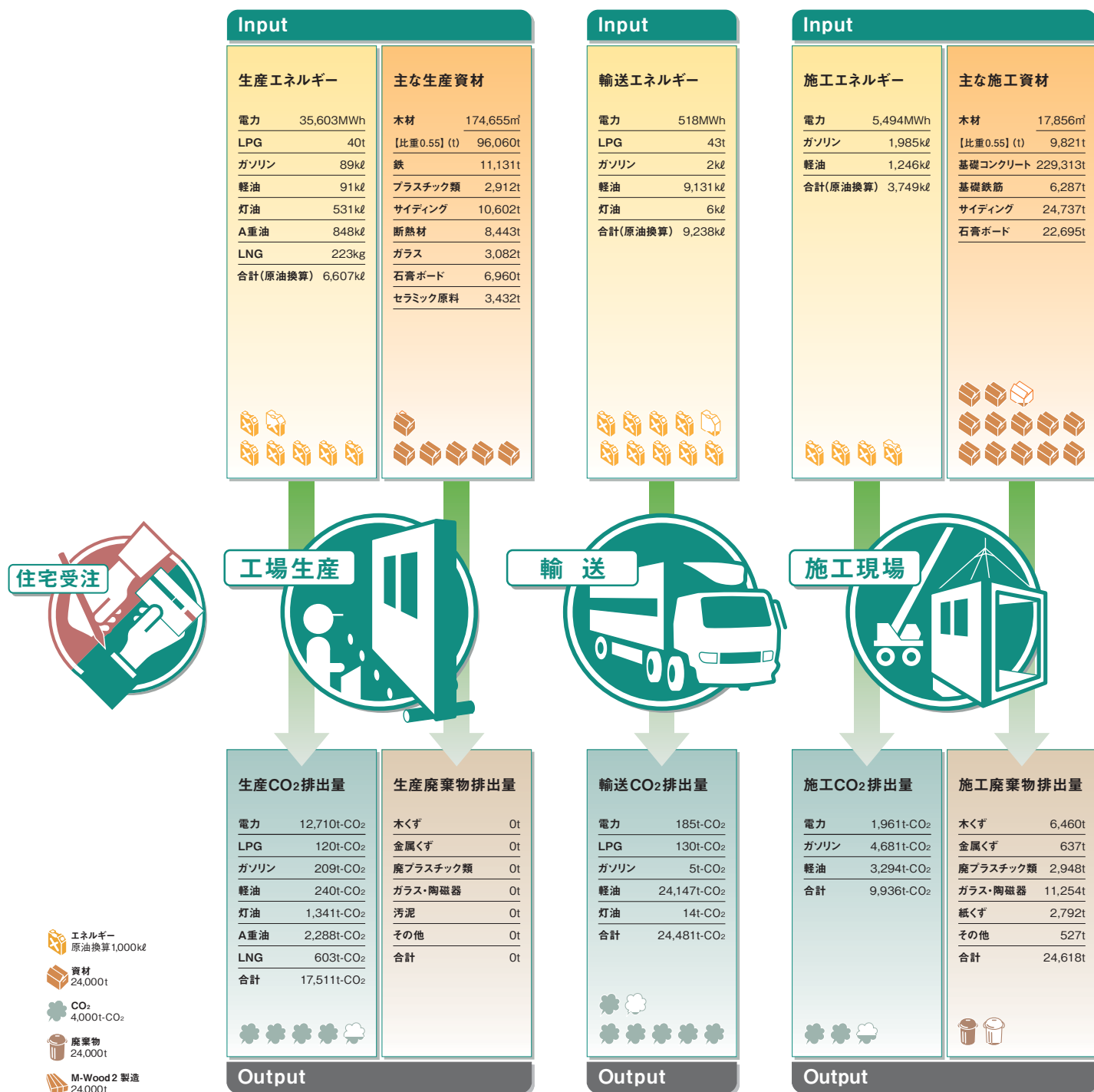
※木質部品工場

2009年3月末現在

ミサワホームの環境への関わり

住宅の生産、輸送、施工、居住、解体には、多くの資材とエネルギーが投入され、廃棄物や温室効果ガス(CO₂)などが排出されています。ミサワホームでは、2008年度の販売実績に基づいて環境側面から環境影響を的確に把握し、効果的に環境負荷を低減させるため、ライフサイクル(生産・輸送・現場・居住段階)ごとの資材とエネルギーを集計しインプットとし、廃棄物や温室効果ガス(CO₂)などのアウトプットを「マテリアル&エネルギーフロー」としてまとめています。

2008年度 マテリアル&エネルギーフロー図

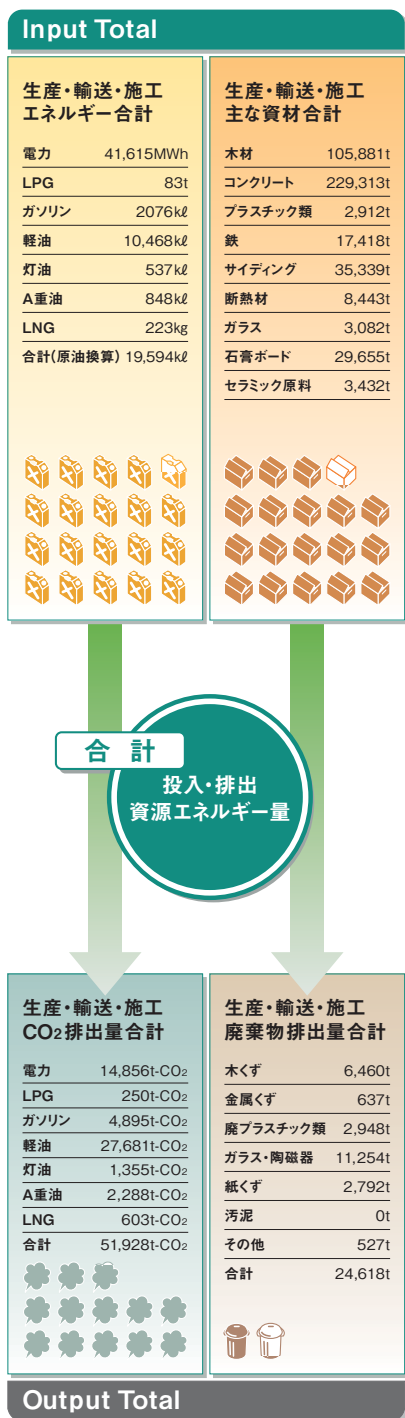


【算出根拠】

※CO₂排出量：各種エネルギーからCO₂への換算は社団法人プレハブ建築協会「エコアクション21」のCO₂排出量原単位による（LNGのCO₂換算係数については地球温暖化対策推進法による）

■工場生産	資材、エネルギー、廃棄物、CO ₂ 排出量	木質工場11、木質部品工場3 セラミック工場1 計15工場の合計
■輸送	エネルギー	車輦(軽油)分(総走行距離×燃費)、輸送基地分の合計
■施工現場	電気	使用電気量(kWh/日・棟)×平均工期×施工棟数
	軽油	建機稼働時(ℓ/h)×燃費(ℓ/棟)×施工棟数 建機平均移動距離(km/棟)×燃費(km/ℓ)×施工棟数

■施工現場	ガソリン	平均職人投入数(人工/棟)×平均移動距離(km/棟)×施工棟数
	廃棄物	自社調査による平均廃棄物排出量×施工棟数
■居住	CO ₂ 排出量	1世帯あたりのCO ₂ 排出量(3,669kg-CO ₂)×施工棟数 「平成21年度版 環境白書」「国勢調査」データに基づき推計
■解体	廃棄物	「住宅・土地統計調査」「木造建築物解体工事の現場」(社団法人全国解体工事業団体連合会)データに基づき推計
■処理・再生	M-Wood2製造	M-Wood2製造工場5工場の製造能力の合計

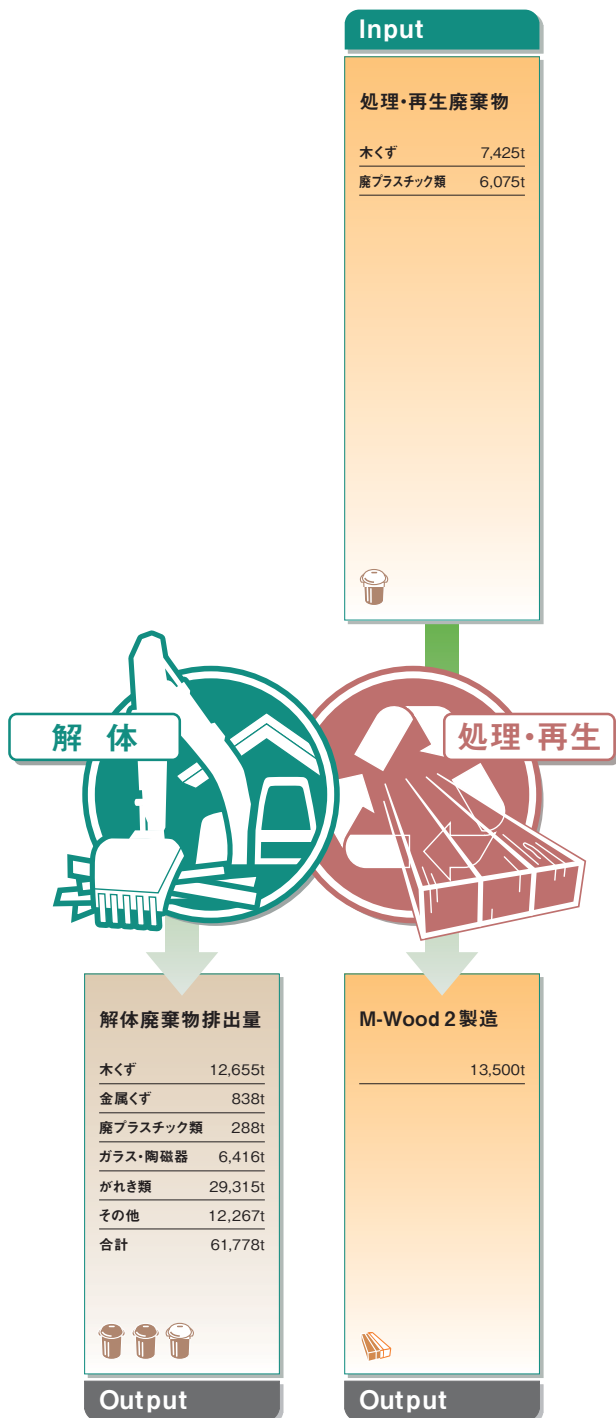
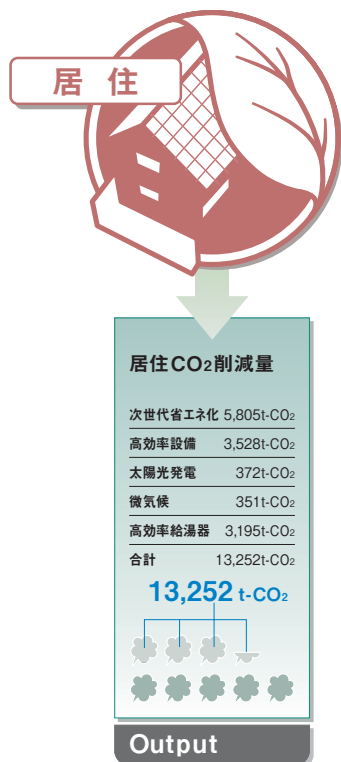


【年間居住段階CO₂削減】

13,252t-CO₂

ミサワホームが2008年度に販売した住まいにおいて、太陽光発電システム、24時間フロアセントラル熱交換換気システムの導入や、IHコンロ、エコキュート、エコジョーズなどの高効率・省エネルギー機器を利用した環境配慮設計により、年間居住段階CO₂、約33,749tのうち13,252tを削減できた計算となります。

参考：一般廃棄物排出量1,629kg(4人家族)(1,061kg/世帯)(平成21年度版 環境白書、国勢調査) CO₂排出量5,635kg-CO₂(4人家族)(3,669kg-CO₂/世帯)(平成21年度版 環境白書、国勢調査)





2008年度環境活動の実績と自己評価

ミサワホームでは環境マネジメントシステムのもと、さまざまな環境活動を展開しています。

「SUSTAINABLE 2010」(2006～2010年度)に基づき、環境目標達成に向けて環境目標を年度ごとに掲げています。

このページでは、ミサワホームの環境活動をカテゴリー別に2008年度の環境目標に対する実績と自己評価を掲載しています。

CO₂削減

環境目的	項目別目標		目標と実績	自己評価																		
	項目	目標																				
新規に供給する住宅の ライフサイクルに おけるCO ₂ 排出量を 2010年度までに1990年度 (4,251kg-CO ₂ /棟・年) 比20%削減する。	棟当たりCO ₂ 排出量 (kg-CO ₂ /棟・年)		<table><thead><tr><th>年</th><th>目標</th><th>実績</th></tr></thead><tbody><tr><td>2006年</td><td>4,123</td><td>4,066</td></tr><tr><td>2007年</td><td>3,868</td><td>3,869</td></tr><tr><td>2008年</td><td>3,756</td><td>3,805</td></tr><tr><td>2009年</td><td>3,648</td><td></td></tr><tr><td>2010年</td><td>3,401</td><td></td></tr></tbody></table>	年	目標	実績	2006年	4,123	4,066	2007年	3,868	3,869	2008年	3,756	3,805	2009年	3,648		2010年	3,401		2007年度より64 (kg-CO₂/棟・年)削減しましたが、2008年度目標は未達成でした。今後も全社をあげてCO₂排出量の削減に努めていきます。
	年	目標	実績																			
	2006年	4,123	4,066																			
	2007年	3,868	3,869																			
	2008年	3,756	3,805																			
2009年	3,648																					
2010年	3,401																					
居住段階 エネルギー	次世代省エネ基準以上(品確法4等級相当以上)の住宅の普及率(%)		<table><thead><tr><th>年</th><th>目標</th><th>実績</th></tr></thead><tbody><tr><td>2006年</td><td>82</td><td>84</td></tr><tr><td>2007年</td><td>86</td><td>86</td></tr><tr><td>2008年</td><td>90</td><td>90</td></tr><tr><td>2009年</td><td>90</td><td></td></tr><tr><td>2010年</td><td>90</td><td></td></tr></tbody></table>	年	目標	実績	2006年	82	84	2007年	86	86	2008年	90	90	2009年	90		2010年	90		2007年度比で4ポイント改善し、2008年度目標を達成しました。今後も次世代省エネルギー基準対応住宅の普及を推進します。
	年	目標	実績																			
	2006年	82	84																			
	2007年	86	86																			
2008年	90	90																				
2009年	90																					
2010年	90																					
	微気候システム搭載住宅の普及率(%)		<table><thead><tr><th>年</th><th>目標</th><th>実績</th></tr></thead><tbody><tr><td>2006年</td><td>10</td><td>6</td></tr><tr><td>2007年</td><td>15</td><td>14</td></tr><tr><td>2008年</td><td>15</td><td>28</td></tr><tr><td>2009年</td><td>30</td><td></td></tr><tr><td>2010年</td><td>30</td><td></td></tr></tbody></table>	年	目標	実績	2006年	10	6	2007年	15	14	2008年	15	28	2009年	30		2010年	30		2007年度比で14ポイント改善し、2008年度目標を達成しました。今後も、営業・設計部門が連携して微気候商品の普及を定着させ、居住段階でのCO₂排出量を削減します。
年	目標	実績																				
2006年	10	6																				
2007年	15	14																				
2008年	15	28																				
2009年	30																					
2010年	30																					
	高効率給湯器の普及率(%)		<table><thead><tr><th>年</th><th>目標</th><th>実績</th></tr></thead><tbody><tr><td>2006年</td><td>31</td><td>31</td></tr><tr><td>2007年</td><td>40</td><td>44.4</td></tr><tr><td>2008年</td><td>49</td><td>52.2</td></tr><tr><td>2009年</td><td>55</td><td></td></tr><tr><td>2010年</td><td>60</td><td></td></tr></tbody></table>	年	目標	実績	2006年	31	31	2007年	40	44.4	2008年	49	52.2	2009年	55		2010年	60		2007年度比で7.8ポイント改善し、2008年度目標も達成しました。今後も高効率給湯器の普及に努めていきます。
年	目標	実績																				
2006年	31	31																				
2007年	40	44.4																				
2008年	49	52.2																				
2009年	55																					
2010年	60																					
	高効率設備機器の採用によるCO ₂ 排出量の削減(kg-CO ₂ /棟)		<table><thead><tr><th>年</th><th>目標</th><th>実績</th></tr></thead><tbody><tr><td>2006年</td><td>210</td><td>284</td></tr><tr><td>2007年</td><td>293</td><td>330</td></tr><tr><td>2008年</td><td>353</td><td>384</td></tr><tr><td>2009年</td><td>408</td><td></td></tr><tr><td>2010年</td><td>427</td><td></td></tr></tbody></table>	年	目標	実績	2006年	210	284	2007年	293	330	2008年	353	384	2009年	408		2010年	427		2007年度比54(kg-CO₂/棟・年)削減し、2008年度目標も達成しました。今後も高効率機器の標準化に取り組み、CO₂排出量の削減に努めていきます。
年	目標	実績																				
2006年	210	284																				
2007年	293	330																				
2008年	353	384																				
2009年	408																					
2010年	427																					

自己評価基準 環境行動計画における目標を気象の天気表示にして3段階で表現しました。

☀️ 2007年度実績よりも改善し、2008年度目標も達成。 ☁️ 2007年度実績よりも改善しましたが、2008年度目標は未達。 🌧️ 2007年度実績よりも悪化し、2008年度目標も未達。

CO2削減／資源有効活用

環境目的	項目別目標		目標と実績	自己評価
	項目	目標		
新規に供給する住宅のライフサイクルにおけるCO2排出量を2010年度までに1990年度(4,251kg-CO ₂ /棟・年)比20%削減する。	工場生産エネルギー	木質・セラミック棟当たり排出量(kg-CO ₂ /棟) 木質部品当たり排出量(kg-CO ₂ /BCL枚) ※1部品当たりバーコード枚数		 木質 セラミック 木質部品 木質工場及び木質部品工場においての2007年度CO2排出量は目標値を達成していますが、セラミック工場においては、オートクレープ用の蒸気ボイラーのエネルギー起源の変更が遅れたことで未達。
	輸送エネルギー	棟当たり排出量(%)		 木質系住宅 セラミック系住宅 セラミック系住宅においては、2007年度より減少し、2008年度目標を達成しましたが、木質系住宅については、積込基準改定による改善を行いました。部品の調達における改善が遅れたため未達。今後もアイドリングSTOPの徹底や積込基準の見直し等による削減に努めていきます。
	事務所エネルギー	事務所活動に伴うCO2排出量(t-CO ₂)		 事務所の一部において、環境配慮したレイアウト及び照明器具の配置等を行い、目標値を達成しました。今後も事務所活動における省エネ活動について全社を挙げて推進していきます。
環境配慮素材の活用や、建物の長寿命化・長期耐久化を促進する。	リサイクル素材の活用	M-Wood1・2使用量(%)		 M-Wood1においては商品における標準化を行いました。2007年度基材の仕様変更により使用量は大幅未達でした。M-Wood2においては、海外需要等により2007年度より伸びて、2008年度目標も達成。
	グリーン購入量の推進	事務用品のグリーン購入比率(%)		 2007年度は、各事務所における事務用品の棚卸を行い、余剰品使用を促進したため目標は大幅に未達成。今後、目標値の見直しを行い、購入予定品は継続してグリーン購入の推進に努めます。

2008年度環境活動の目標と実績

自己評価基準 環境行動計画における目標を気象の天気表示にして3段階で表現しました。

☀️ | 2007年度実績よりも改善し、2008年度目標も達成。 ☁️ | 2007年度実績よりも改善しましたが、2008年度目標は未達。 🌧️ | 2007年度実績よりも悪化し、2008年度目標も未達。

ゼロ・エミッション/健康配慮/企業活動

環境目的	項目別目標		目標と実績	自己評価
	項目	目標		
2010年度までに 工場・現場における ゼロ・エミッション化 を達成する。	工場生産 活動における 廃棄物削減	工場生産から 排出される 廃棄物の リサイクル率(%)		全工場において2008年度期初からゼロ・エミッションを達成し、工場生産から排出される廃棄物のリサイクル率100%を達成しました。今後は維持管理を行いながら、リサイクルの内容の改善を図るよう努力します。
	現場生産 活動における 廃棄物削減	新築現場から 発生する 廃棄物排出量 (%)		内装床材や石膏ボードの割付等による現場余材の削減に取り組み、2008年度の目標値は達成しましたが、前年度を下回りました。今後も継続してゼロ・エミッション活動を積極的に取り組みます。
	事務所活動 における 廃棄物削減	事務所から 発生する 廃棄物 排出量(t)		社内EMS活動の1つである、各事務所における廃棄物削減に取り組み、2008年度目標値を達成しました。今後もより一層、事務所から発生する廃棄物を削減するよう努力します。
健康に配慮した 住宅を供給する。	有害化学 物質対策	工場生産段階 における鉛・ ジクロロメタン 使用量(%)		工場生産段階における鉛及びジクロロメタンについての使用量削減は、計画通り行い2008年度の目標値を達成しています。
人と自然が共生し、 資産価値の高い まちづくりを促進する。	環境共生	環境に配慮 したまちづくり の推進	●超長期モデル事業開始 MH西関東「オナーズヒル西鳩ヶ谷」 ●まちづくりツール類作成(プラン集、コンセプト編、事例集)	



地球環境と共に

ミサワホームグループは、企業活動そのものが環境保全活動となるよう努力します。

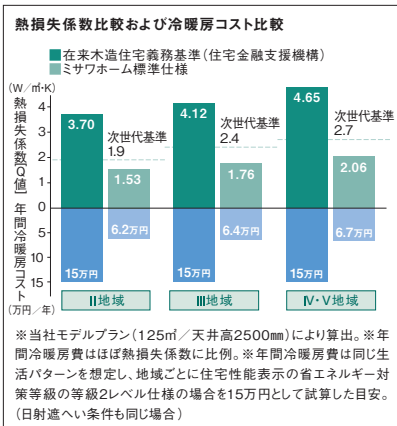
CO₂削減 ミサワホームの企業活動によるCO₂排出量を、2010年度までに1990年度比20%削減することをめざしています。

chapter.1

省エネルギー住宅によるCO₂削減

■次世代省エネルギー基準を上回る省エネ性能

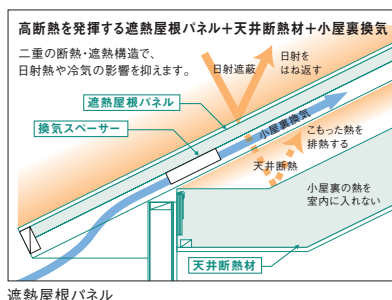
2005年発効の京都議定書では、2012年までに温室効果ガスを1990年比で6%削減することが定められています。ミサワホームでは、温室効果ガスの大部分を占めるといわれるCO₂排出量を、2010年度までに20%削減する目標を定め、さまざまな活動を行ってきました。その中核となる次世代省エネルギー基準は、2004年に戸建住宅を標準仕様化。2008年度の



販売実績のうち、90%が次世代省エネ基準の住まいでした。今後さらに、全棟次世代省エネ基準の実現に努めていきます。

■すぐれた断熱性能で省エネルギー

木質パネル接着工法により、通常仕様でも高断熱・高气密のミサワホームの住まいですが、「遮熱屋根パネル」や「200mm厚天井断熱材」、「高断熱木質パネル」などの利用で、さらなる高断熱設計も実現できます。エネルギー消費シミュレーションソフトを使用して、邸別の省エネルギー性能を確認することも可能です。



chapter.2

創エネルギー住宅によるCO₂削減

■ミサワホームのゼロ・エネルギー住宅

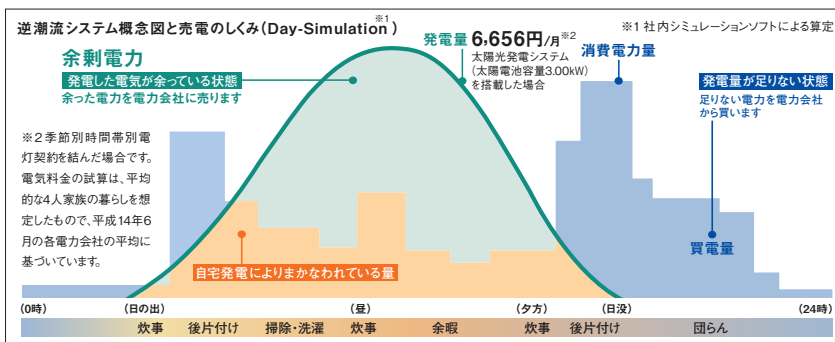
ミサワホームでは、高断熱・高气密設計による省エネルギー、太陽光発電システムによる創エネルギー、さらにオール電化等による高効率化を融合することで、1998年、生活エネルギーを100%自給できる世界初のゼロ・エネルギー住宅「HYBRID-Z」や「ミサワホームZ」を実現。現在は「VikiCourt」「SMART STYLE」などを中心に、太陽光発電システムを搭載した住まいのさらなる普及に努めています。

■エネルギーの有効活用でさらにエコロジー

ミサワホームでは、空調、給湯、調理にいたるまで、全てに高効率機器をご用意しています。太陽光発電の活用によるクリーンな電力の供給、電力を利用するヒートポンプ空調やエコキュートによる給湯、ガスを利用するエコジョーズによる給湯や暖房、エコウィルや燃料電池による給湯や暖房と同時に行われる発電など、安全性・利便性と共にエネルギーの有効活用をご提案しています。



CENTURY VikiCourt





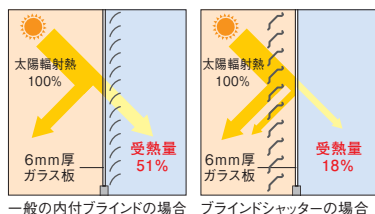
chapter.3

次世代ゼロ・エネルギー住宅(蒸暑地仕様)

徹底した断熱・気密対策を核とした「省エネルギー技術」。太陽の光や空気の熱といった自然の恵みを活かす「創エネルギー技術」。ミサワホームでは、その二つを高い次元で融合させた「次世代ゼロ・エネルギー住宅」の開発に取り組んでいます。昨年の北海道、旭川の極寒地仕様に続いて、今年度は三重県亀山市に蒸暑地仕様の試行棟を建設。断熱性だけでなく夏季の日射遮蔽性、通風・排熱性などの「微気候デザイン」を強化した仕様としています。年間の発電量が消費量を上回るだけの従来のゼロ・エネルギー住宅に対し、建設時に必要なエネルギーも含め生活段階で回収するライフサイクルエネルギー収支ゼロを目指しています。

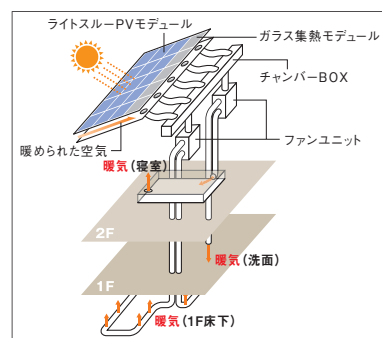


ブラインドシャッター 一般的な室内ブラインドに比べて日射の遮蔽効果は約3倍。太陽熱の約82%を遮蔽するので、夏の室内保冷にとっても効果的です。サッシを開けて日射を遮りながら風を通すこともできるので、室内を涼しく保てます。ブラインドタイプなので、外からの視線も気にすることなく、効率よく外気を取り入れることができます。

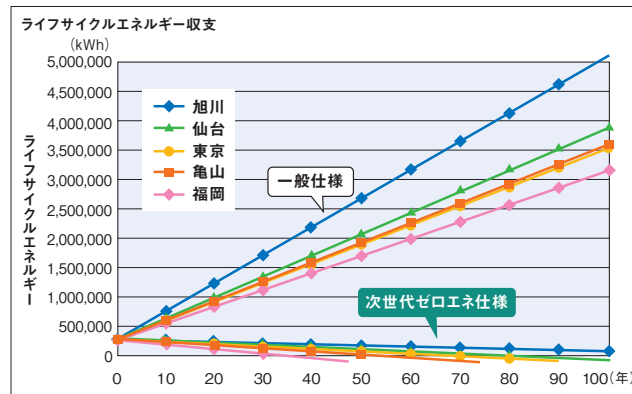
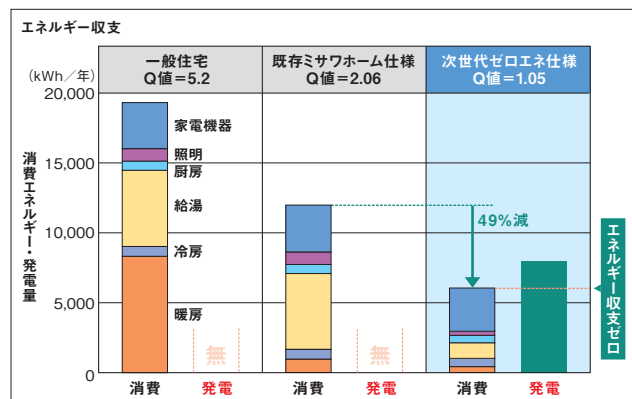


カスケードソーラーシステム 太陽光発電モジュールは日射のエネルギーの一部を電気に変換するものですが、残りは熱となり外気に流れます。この熱を効率的に回収すれば、冬の暖房に利用可能です。カスケードソーラーは、建材型太陽

光発電モジュールの発電に寄与しない部分を透明にして熱を裏面に透過し、ファンで床下に搬送することで、天然の床暖房として利用しています。



ライフサイクルエネルギー収支 「ライフサイクルエネルギー」とは建物を建設する時の原材料の調達から、工場生産、輸送、現場施工、そして完成後使用(居住)し、最後は解体廃棄するまでの一連のサイクルの中で消費される全てのエネルギーを意味します。「次世代ゼロ・エネルギー住宅」は太陽光による発電量が消費量を上回るため、一定の期間で建設時も含めたライフサイクルエネルギー収支もゼロになり、それ以降はCO₂を吸収する住宅になると言えます。



■「ECO・微気候デザイン」とは

「家のつくりようは夏を旨とすべし」と吉田兼好が「徒然草」に書いたように、日本の伝統住宅には高温多湿の夏をしのぎやすくする工夫が随所にありました。自然の快適さを取り入れて心地よく暮らす“先人の知恵”を、現代の“先進の技術・デザイン”で再現するのが「ECO・微気候デザイン」です。エアコンなどの使用を抑え、省エネルギーで環境にもやさしく暮らせませす。「微気候」とは、住まいとその周辺の微小な範囲の気候のこと。1棟ごとに異なる地域の気候特性や、敷地における風の通り道、日照条件、土地の高低、隣家の状況、植物分布などを把握し、年間を通してより快適な住まいをデザインします。



「ECO・微気候デザイン」を採用した「HYBRID BLANC」

■夏を涼しく暮らす「ECO・微気候デザイン」

日差しを遮り、風を採り入れ、熱気を排出するのが夏を涼しく暮らす知恵。夏の日射は、「ウォールルーバー」や深い庇でカットし、壁面や窓面の温度上昇を抑えます。外気温の影響を受けにくくする工夫として、高遮熱の「陶器瓦」や、開口部を奥まった位置に設ける「凹型プラン」も効果的。いずれもエアコンの使用を抑え、省エネルギーにも貢献します。また、室内の風通しを良くするため、開口部は「南北通風」設計を基本に、暖まると上昇する空気の状態を利

用した「温度差換気」をご提案。地窓を風の入口とし、「内部換気ガラリ」を経て出口にトップライトや高窓、換気塔などを設けることで、高低差により自然に風が流れ、無風時も室内にこもる熱気を効果的に排出できます。

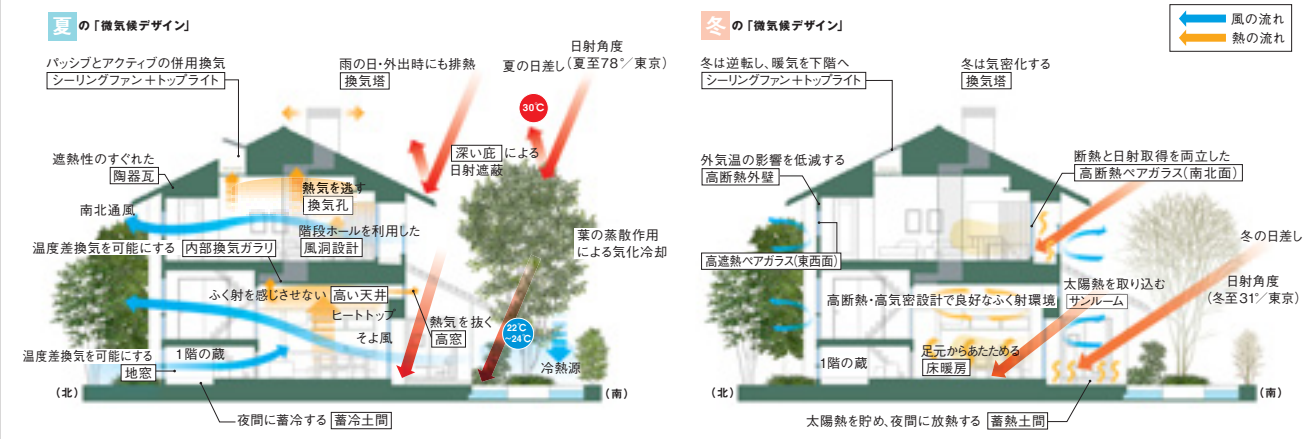
■冬を暖かく暮らす「ECO・微気候デザイン」

暖められた空気を逃がさないのが、冬を快適に暮らす知恵。「高断熱ペアガラス」などを採用した開口部やサンルームから日差しをたっぷり採り入れ、室内を暖めます。暖められた室内の空気は、ミサワホーム独自の「木質パネル接着工法」による高断熱・高気密設計がしっかりキープ。冬の日中に太陽熱を蓄え、夜間に少しずつ放熱して室温の低下を抑える蓄熱土間なども効果を発揮します。換気塔やトップライトは気密化し、シーリングファンは夏とは逆に回転させて上昇してきた暖気を下へ戻します。

■無風時にも風が流れる「涼風制御システム」

夏の日差しをカットし、冬は招き入れる「深い庇」などの“先人の知恵”と、高断熱・高遮熱タイプを使い分けできる「高性能複層ガラス」などの“先進の技術・デザイン”の両方を融合し、さらに「涼風制御システム」により天井付近にこもる熱気を抜きながら自然の風を取り込み、エアコンを補助的に運転させることで、運転時間を低減させます。通風の期待できない都市部などで、とくに効果的なシステムです。

夏と冬の「ECO・微気候デザイン」イメージ





資源の有効活用 地球資源を有効活用する新素材の発明や、環境に配慮した木材使用を推進しています。

chapter.1

環境配慮素材「ニューセラミック」

資源の枯渇を考えたときに、大切になるのは代替資源を活かした製品開発です。まだ余裕のある身近な材料を有効に活かし、すぐれた住宅素材を生み出していくことが必要です。ミサワホームは、いち早く環境と住宅の共生を考えて、自然界に豊富に残されている珪石と石灰石に着目。1972年にまったく新しい住宅素材「ニューセラミック」を開発しました。

ニューセラミックは堅牢さと優れた耐火性・耐久性・断熱性・遮音性を実現し、外壁材としてあらゆる面で高い性能を備えた多機能素材です。珪石と石灰石の粉末をスラリー（泥状液）にし、ミキサーから型枠に流し込んで一体成型。裏面を整えるときに出るスラリーも廃棄せずに、再びミキサーから型枠に流し込むため原料をムダなく活かすことができます。



chapter.2

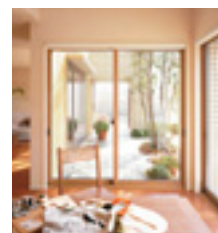
リサイクル素材「M-Wood」

いまや木材資源の保全は、人類共通のテーマといえます。ミサワホームでは、省資源、木の代替材の開発、そしてリサイクルという3つのテーマのもと、工場で生産できる新しい素材「M-Wood」を開発しました。木を製材するときに出る端材などを再利用してつくられ、色合いも肌ざわりも木そのものという画期的な素材です。そのうえ耐久性、耐水性など、天然木の苦手部分を克服し、高品質と高性能を実現しました。加工性にすぐれ、屋内のドア枠やサッシ枠、化粧巾木以外にも、

階段手すりやトイレのL字バー連続仕上げなど、木では難しい曲線的なデザインも可能。ほかにも、JR寝台特急列車「サンライズエクスプレス」の車両内装や能舞台に採用されるなど、さまざまな分野で活用されています。



M-Wood



サッシ枠にも「M-Wood」を利用

chapter.3

100%リサイクル素材「M-Wood2」

木材以外の素材のリサイクルもめざして、100%リサイクル材「M-Wood2」を開発しました。工場や施工現場から出る木質系廃材と、容器包装材などの廃プラスチックを再利用しています。日光や風雨にさらされても劣化しにくく、メンテナンス性にすぐれ長期間使用できます。このような特長をもつ「M-Wood2」はデッキ、パーゴラなど、住宅のエクステリア部材としてだけでなく、2005年の愛知万博デッキや各種屋上緑化施設など、環境を重視する大型プロジェクトにも採用されています。また、使用後回収して原料として再利用

できる多回リサイクル性を持っています。環境負荷の低減に配慮した素材として（財）日本建築センターが行う「再生有機系建材認定事業」の第1号を取得しました。環境保全に役立つ商品として「エコマーク」も取得しています。また、ミサワテクノは「木材・プラスチック再生複合材」新JISマークの認定工場になっています。



エビスグリーンガーデン

chapter.4

PEFC認証のフィンランド工場

ミサワホーム・フィンランド工場は、世界最大の森林認証制度「PEFC森林認証プログラム」を取得しています。「PEFC」には、森林管理に対する認証と、加工・流通の認証の2種類があり、当工場が取得したのは、加工・流通の認証「CoC認証」です。「CoC認証」とは、森林材を利用した製品に、認証された森林の伐採材が一定基準以上使用されていることを証明する認証制度です。



PEFC-CoC認証書



ミサワホーム・フィンランド工場

※PEFC:Programme for the Endorsement of Forest Certification schemes

chapter.5

「エコレールマーク」の企業認定

ミサワホームでは、物流の効率化を図るべく、『モーダルシフト』という言葉が使われ始める前から鉄道貨物やフェリーを利用していました。現在、北は北海道から南は九州までの500km以上の長距離輸送に鉄道貨物やフェリーを利用し、輸送ロスのない効率的な物流を実現させています。500km



以上の輸送におけるモーダルシフト化率は41%です。この結果CO₂排出量の少ない鉄道輸送に積極的に取り組む企業として、2006年「エコレールマーク」の認定も受けています。



資材の長距離輸送にはJRコンテナを活用

chapter.6

地球環境に配慮した木材生産

■環境先進国フィンランドでの調達・生産

フィンランドは、森林伐採量を厳しく制限している環境先進国。ミサワホーム・フィンランド工場では、伐採した木をムダなく活用するシステムを構築しています。丸太の製材過程で発生する樹皮は隣接する火力発電所の燃料に、チップはパルプの原料に利用するなど100%利用し、森林資源を有効活用。反り、ひび割れなどの経年変化を抑えるための木材含水率15%以下の管理は、化石燃料を使用しない人工乾燥です。



化石燃料を使わない人工乾燥

■中国で環境負荷の少ない積層合板を生産

中国では進行する砂漠化抑止のため、平原緑化政策を推進。中国のミサワホーム工場では、緑化政策によって植林された木を使用しています。世界三大植林のひとつにも数えられる、環境負荷の少ない樹種です。この工場はLVL(単板積層材)の生産拠点として、JAS認定を取得しています。



中国・臨沂(リンイ)のミサワホーム工場



製造工程



ゼロ・エミッション 関東エリアの1都7県を対象に、「広域認定制度」の認定を取得しました。

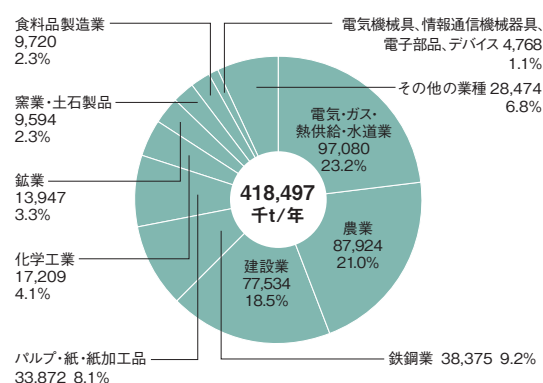
chapter.1

工場におけるゼロ・エミッション

■工場ゼロ・エミッション達成の維持

環境省がまとめた「産業廃棄物の業種別排出量(2006年)」によると、産業全体の年間総排出量は418,497千tとなり前年より約300万t(約0.8%)減少していますが、建設業は77,534千tと前年より約1,068千t(約1.4%)増加し、全体の18.5%を占めており、業種別に見ても3番目に多い産業です。ミサワホームでは、環境5ヵ年活動計画「SUSTAINABLE 2010」に基づいて生産工場や施行現場から排出される産業廃棄物の削減に取り組んでいます。2007年には全生産工場において生産工程から排出される廃棄物の埋め立て及び単純焼却を行わず、リサイクル率100%としたゼロ・エミッションを達成し、維持継続しています。また、CO₂排出量の削減などの環境活動、地域住民向け工場見学会の実施などを積極的に社会活動を行い、工場所在地の地域住民の方々にも安心していただけるような生産活動に努めています。

産業廃棄物の業種別排出量(2006年)



ミサワホーム工場のゼロ・エミッション認定年月

工場名	認定年月	工場名	認定年月
静岡工場	平成17年8月	岩手工場	平成19年8月
松本工場	平成17年9月	山梨工場	平成19年9月
福岡工場	平成18年1月	福井工場	平成19年9月
名古屋工場	平成18年7月	札幌工場	平成19年11月
沼田工場	平成18年8月	磯原工場	平成19年12月
岡山工場	平成18年11月	島根工場	平成20年3月
梓川工場	平成19年3月	富山工場	平成20年3月
駒ヶ根工場	平成19年4月		

chapter.2

現場におけるゼロ・エミッション

ミサワホームでは、2006年度に策定した環境5ヵ年活動計画「SUSTAINABLE 2010」に基づいて、2010年度までに、新築住宅における全施工現場でのゼロ・エミッション化を推進しています。2008年度における現場ゼロ・エミッション活動は、各エリアのディーラーによる取り組みの結果、ミサワホーム信越(新潟支社)が認定を取得しました。またミサワホーム静岡の3拠点についてもゼロ・エミッション試行活動を



書類審査

開始し、2009年度中の認定取得を目指していきます。また、ディーラーにおけるリサイクル推進と同時にメーカーにおけるリデュース・リ

ユース推進のための準備をしました。環境大臣の広域認定制度の中核施設である資源循環センター(千葉県野田市)を建設し、3月には認定を取得することができました。2009年度以降は全量測定を行い、データ蓄積しその情報をリリースすることによって、社内技術部門(商品開発・積算・購買・物流)全体で改善に取り組んでいきます。今後も、全施工現場での廃棄物削減及びゼロ・エミッション



現場審査

を推進し、地球規模での環境負荷低減を図るとともに、施工現場の周辺居住者が安心して生産活動に努めています。

「SASTAINABLE 2010」で掲げる新築現場のゼロ・エミッション達成に向けて、関東エリアの1都7県を対象とした「広域認定制度」の認定を2009年3月に取得し、これに基づき千葉県野田市に「関東資源循環センター」を建設、稼働させています。「広域認定制度」とは、複数の都道府県にまたがり、産業廃棄物を回収、処理することを許可される廃棄物処理法の特例制度で、廃棄物の広域処理に関して一定の基準に達していることを条件として、環境大臣により認定されるものです。センターの規模は敷地面積が約2万5,600㎡、建屋面積は約2,900㎡、処理能力は年間3,500棟分です。施工現場で10品目に分別した廃棄

物を部材搬入に利用したトラックなどで回収、センター内の段ボール圧縮梱包機や発泡スチロールの減容機などで約30品目に細かく分類、再資源化業者に渡し、段ボールは再生紙、木くずはパーティクルボードなどにリサイクルされます。その際に施主別、品目別に発行したQRコードのラベルから情報を読み取り、重量を計測、廃棄物量のデータ収集や搬出先を管理して、さらなる廃棄物発生量の抑制に役立てています。ミサワホームではこの資源循環センターで構築した資源リサイクルシステムのノウハウを全国に展開し、2010年度までに全ての新築施工現場でのゼロ・エミッション達成を目指しています。



関東資源循環センター



QRコードの読み取り作業（廃プラスチック）



QRコードの読み取り作業(段ボール)

「広域認定制度」を利用した廃棄物処理ルート

①資源循環センターを拠点とした直接回収の処理体制



※関東資源循環センターは、
関東物流センターに併設
※集荷拠点は関東エリアで8カ所

「関東資源循環センター」の概要

・センター所在地／千葉県野田市はやま1-5 ・センター面積／約2,900㎡(878坪) ・敷地面積／25,580㎡(7,738坪) ・廃棄物処理能力／年間3,500棟
・廃棄物処理内容／新築施行現場で10品目に分別された廃棄物をさらに選別、圧縮、減容、分別品数／ダンボール、プラスチック類、石膏ボードなど約30品目



サイトレポート ミサワホームは、生産工場の環境基準の遵守、環境負荷の把握を徹底しています。

chapter.1

全国生産工場の環境パフォーマンス

■ 全国生産工場における2008年度環境負荷の把握

ミサワホームでは全国にある15ヶ所の生産工場において、化学物質の移動量や排出量を定期的に調査しています。大気、水質、土壌等の環境基準の遵守や、環境負荷の把握も徹底して行なっています。2007年度において全工場がゼロ・エミッション化を達成し、2008年度期初より維持継続したことにより、リサイクルにおける総発生量および再資源化

率の向上が図れました。各工場では、生産効率と品質の向上を図るため、多品種少量生産を基本に、ミサワホーム独自の生産システムMPS(MISAWA Profit System)を導入。また、環境におけるマネジメントシステム(EMS)も導入し、工業化住宅の安定した品質の供給と生産における環境負荷低減に取り組むことで、地球温暖化防止につながるCO₂排出量の削減を推進しています。※ISO14001認証工場についてはP36参照

工場名	省エネルギー(地球温暖化防止)		リサイクル			
	原油換算(キロリットル)	t-CO ₂	再資源化率	総発生量(トン)	最終処分量(トン)	再資源化量(トン)
ミサワホーム岩手工場	484	705	100%	305	0	305
ミサワホーム松本工場	765	1,081	100%	276	0	276
ミサワホーム沼田工場	1,170	1,666	100%	521	0	521
ミサワホーム静岡工場	895	1,280	100%	550	0	550
ミサワホーム岡山工場	937	1,330	100%	513	0	513
ミサワホーム福岡工場	627	895	100%	398	0	398
ミサワホーム札幌工場	570	1,066	100%	916	0	916
ミサワホーム山梨工場	413	622	100%	70	0	70
ミサワホーム磯原工場	257	369	100%	193	0	193
ミサワホーム福井工場	212	349	100%	99	0	99
ミサワホーム島根工場	185	279	100%	75	0	75
ミサワホーム梓川工場 ^{※1}	1,633	2,440	100%	166	0	166
ミサワホーム富山工場 ^{※1}	141	202	100%	318	0	318
ミサワホーム駒ヶ根工場 ^{※1}	303	486	100%	50	0	50
ミサワホーム名古屋工場 ^{※2}	2,459	4,741	100%	2,835	0	2,835

※1 木質部品工場 ※2 セラミック工場

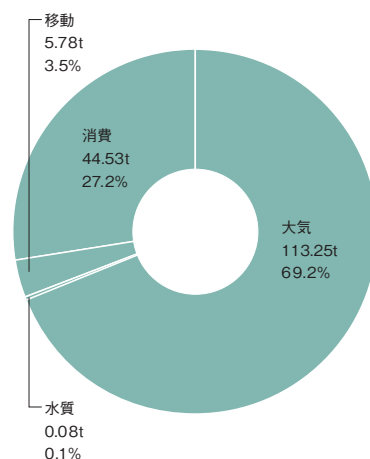
全国のミサワホーム生産工場

A. 岩手工場 B. 梓川工場
C. 松本工場 D. 沼田工場
E. 静岡工場 F. 岡山工場
G. 福岡工場 H. 駒ヶ根工場
I. 名古屋工場 J. 札幌工場
K. 山梨工場 L. 磯原工場
M. 福井工場 N. 島根工場
O. 富山工場

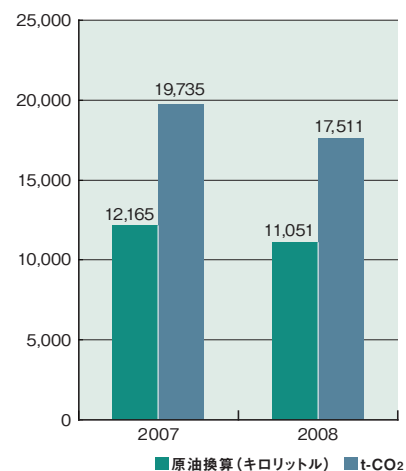


■はPRTR届出工場

排出・移動先別構成比



工場における省エネルギー



工場名	PRTR(トン)					
	総取扱量	大気	水質	土壌	移動(廃棄物)	消費
ミサワホーム岩手工場	2.31	0.13	0.00	0.00	0.20	1.98
ミサワホーム松本工場	1.95	0.24	0.00	0.00	0.13	1.58
ミサワホーム沼田工場	14.26	0.44	0.00	0.00	1.43	12.39
ミサワホーム静岡工場	0.97	0.11	0.00	0.00	0.09	0.77
ミサワホーム岡山工場	3.00	0.48	0.00	0.00	0.25	2.27
ミサワホーム福岡工場	3.00	0.29	0.00	0.00	0.26	2.45
ミサワホーム札幌工場	1.78	0.07	0.00	0.00	0.16	1.55
ミサワホーム山梨工場	2.02	0.09	0.06	0.00	0.18	1.69
ミサワホーム磯原工場	1.54	0.22	0.00	0.00	0.13	1.19
ミサワホーム福井工場	0.92	0.28	0.00	0.00	0.06	0.58
ミサワホーム島根工場	1.47	0.02	0.02	0.00	0.13	1.30
ミサワホーム梓川工場 ^{※1}	23.82	5.98	0.00	0.00	1.65	16.19
ミサワホーム富山工場 ^{※1}	1.49	0.89	0.00	0.00	0.06	0.54
ミサワホーム駒ヶ根工場 ^{※1}	9.33	9.18	0.00	0.00	0.10	0.05
ミサワホーム名古屋工場 ^{※2}	95.78	94.83	0.00	0.00	0.95	0.00

※1 木質部品工場 ※2 セラミック工場



健康配慮 ミサワホームは独自のデータベースにより化学物質の削減を推進し、人々の健康に配慮します。

chapter.1

有害化学物質削減の推進

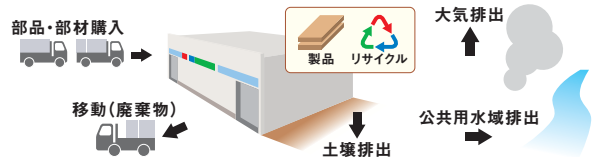
■有害化学物質管理(PRTR)と削減

ミサワホームでは新規の部品部材のうち、接着剤・塗料などの製品安全データを基に独自のデータベース化をPRTR法の施行に合わせて構築し、現在も法改正等に合わせシステムの集計精度を高める取り組みを続けています。環境5ヵ年活動計画「SUSTAINABLE 2010」では、2008年度取り組み優先物質としてラッピング用接着剤成分のジクロロメタンと造作材用の樹脂添加剤としての鉛を特定し、削減に

取り組み、ジクロロメタン、鉛とも計画通り削減いたしました。今後も優先物質を特定し削減に取り組んでいきます。

PRTRの概念図

対象にリストアップされた化学物質を一定量以上製造・使用する事業者は、周囲に排出した量と、廃棄物処理のために事業所の外へ移動させた量とを自ら把握し、行政機関に年1回届け出ます。



PRTR調査結果(2008年度分全体集計)

化学物質	毒性ランク	用途	総取扱量(トン)	排出量・移動量(トン)				消費(トン)	リサイクル(トン)
				大気	水質	土壌	移動(廃棄物)		
キシレン	第1種	塗料 他	61.03	60.42	0.00	0.00	0.61	0.00	0.00
メチレンビス(4,1-フェニレン)=ジイソシアネート	第2種	塗料	23.57	8.09	0.00	0.00	1.46	14.02	0.00
フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	第1種	塗料可塑剤	16.34	0.00	0.00	0.00	1.47	14.87	0.00
トルエン	第1種	塗料 他	16.20	15.86	0.00	0.00	0.34	0.00	0.00
ジクロロメタン	第1種	ラッピング用接着剤	15.52	15.36	0.00	0.00	0.16	0.00	0.00
グリオキサール	第1種	接着剤原材料	9.02	0.00	0.00	0.00	0.91	8.11	0.00
エチルベンゼン	第1種	塗料 他	8.07	7.99	0.00	0.00	0.08	0.00	0.00
酢酸2-エトキシエチル	第1種	造作材用塗料	5.03	4.98	0.00	0.00	0.05	0.00	0.00
ビスフェノールA型エポキシ樹脂	第1種	塗料・接着剤	4.54	0.00	0.00	0.00	0.37	4.17	0.00
フタル酸ジ-n-ブチル	第1種	塗料可塑剤	2.07	0.35	0.00	0.00	0.16	1.56	0.00
鉛及びその化合物	第1種	樹脂添加剤	1.36	0.00	0.00	0.00	0.12	1.24	0.00
ポリ(オキシエチレン)=ノニルフェニルエーテル	第1種	塗料界面活性剤	0.26	0.00	0.00	0.00	0.02	0.24	0.00
ノニルフェノール	第1種	刃物洗浄剤 塗料	0.22	0.00	0.00	0.00	0.02	0.20	0.00
スチレン	第1種	造作材用塗料	0.20	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
フェノール	第1種	役物接着剤	0.11	0.00	0.00	0.00	0.01	0.10	0.00
ヒドラジン	第1種	ボイラー清缶剤	0.08	0.00	0.08	0.00	0.00	0.00	0.00
エチレングリコール	第1種	工場床塗料	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00
ポリ(オキシエチレン)=オクチルフェニルエーテル	第1種	塗料界面活性剤	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00
合計			163.64	113.25	0.08	0.00	5.78	44.53	0.00
ダイオキシン類	特定1種	焼却炉	11.33※	11.22※	0.00	0.00	0.11※	0.00	0.00

※単位:mg-TEQ

事務所の環境推進運動 事務所内での省エネやリサイクル推進に努め、社員一人ひとりの意識向上を図ります。

chapter.1

省エネへの取り組み

環境省が推進する「チーム・マイナス6%」に参加し、事務所内における電気、ガス、水道の使用量の削減に取り組んでいます。省エネ機器の積極的な導入や、昼休みの一斉消灯の呼びかけ、照明配置の見直し、OA機器の電源をOFFにするなど電気を節約。また、地球温暖化防止への身近な取り組みとして、クールビズ推進運動に参加して5年目となります。空調は夏は

28℃を目安に管理し、電気、ガスを節約。また今回、一部の事務所(本社)において、環境を意識した効率的なレイアウトを行い、スッキリと快適なオフィス空間へ変更していきます。



社内でクールビズ推進

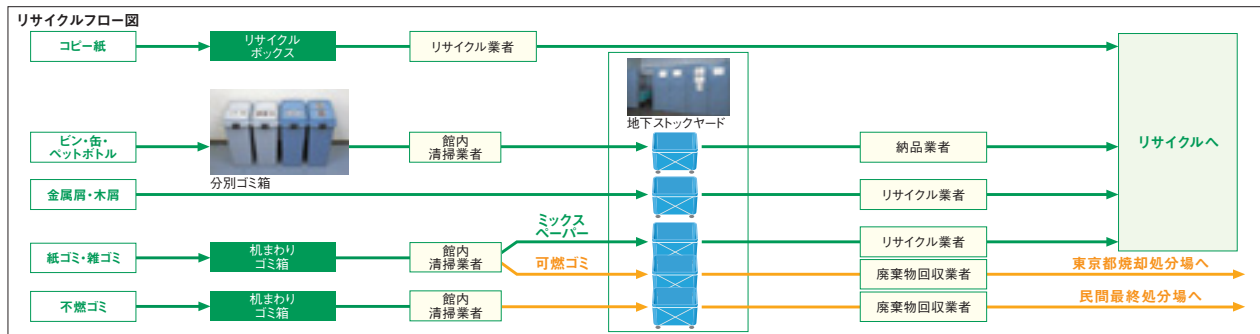
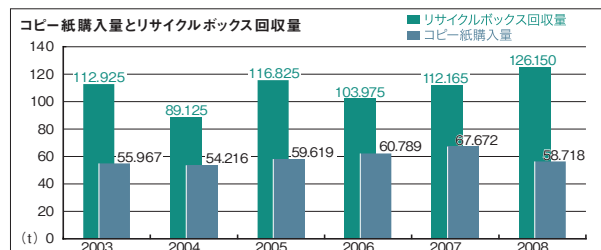
chapter.2

資源有効活用への取り組み

■リサイクルボックスの設置

ミサワホームでは、1997年から現在に至るまで、ペーパーレス化と同時に使用した紙の再利用に努めてきました。使用済み用紙は、個人用の「パーソナルボックス」と部全体で使用する「リサイクルボックス」を設置。2008年度のリサイクルボックス回収量は126,150kgで、これは直径14cm・高さ8mの原木2,523本を保全した計算です。今までの12年間に事務所活動で再資源化した使用済み用紙

の総量は、累計で約1,012t。これは森林面積に換算すると、202,428㎡で東京ドーム約4.8個分相当となります。



環境コミュニケーション ミサワホームの環境活動をより多くの方々にご理解いただけるよう努めています。

chapter.1

森林保護活動

地域の取り組みとして、東北ミサワホームでは宮城県から県有林約5ヘクタールを無償で借り受け、ネーミングライツを導入。CSR活動のひとつと位置づけた環境貢献を行なっています。この「MISAWAオーナーの森 宮城」ではミサワホーム社員とその家族がボランティアで間伐や下草刈り、遊歩道整備やベンチ設置を実施。ミサワホーム・オーナーの皆さまと

ご家族の憩いの場として、体験型イベントの会場としての活用などを考えています。さらに記念植樹なども行い、小さなレベルながら日本の森を守る活動拠点としての活用を続けてまいります。



社員・家族による森林整備活動

chapter.2

CSR報告書の発行

ミサワホームは1999年、業界初の環境活動報告書「HEARTH」を発行。以来、毎年発行を続けてきました。環境報告書には、よりよい報告書づくりに役立てるため、アンケートを添付。2005年度版からは、このアンケート結果も報告書にて公開しています。2007年度からは「CSR報告書」とし

て発行。また、今回からより広く一般にご理解いただける場として、全国の図書館へ「CSR報告書」を寄贈しています。今後も引き続きアンケートなどによりステークホルダーの方々との積極的なコミュニケーションを図っていきます。



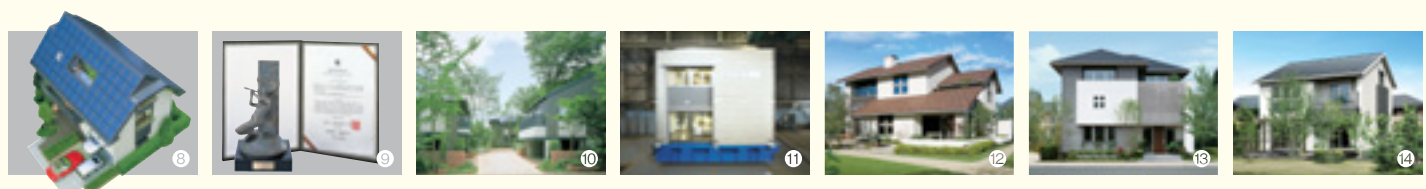
2008年度CSR報告書

ミサワホームグループの沿革

1960	●すぐれた断熱性・気密性を実現する画期的な「木質パネル接着工法」による工業化住宅を開発	1982	●リフォーム専門のホームイングを設立
1962	●業界初の建設大臣認定を受けて営業開始	1983	●24時間サービス体制スタート ●「フレッシュタウン日の出」建設大臣表彰を受賞
1966	●業界初の保証制度実施	1985	④「センチュリーA8」が建設省の推進するセンチュリーハウジングシステム第1号として評価
1967	●ミサワホーム株式会社設立 ①「木質パネル接着工法」が評価され、第9次南極観測の「第9居住棟」「ヘリコプター格納庫」にミサワホームが採用	1986	●床下に独自の防蟻シートを貼る、健康にも環境にもやさしい白アリ対策「無公害防蟻床工法」を開発
1969	●《ホームコア》を発売 ②研究開発体制をいっそう強化・充実させるため、開発室を改組してミサワホーム総合研究所を設置	1987	●国際居住博覧会に180度回転する未来住宅「フューチャーホーム2001」出展
1970	●万国博施設参加で未来住宅《ヘリコ》を出展	1988	●CIをグループに導入
1971	●《フリーサイズF350》建設大臣の認定を取得 同年ホームコアと共に公庫承認を得る	1989	●ラルフ・ネーダー氏が来日し、ミサワホームセミナーにおいて新たな住宅・環境問題に関する「7つの提言」 ●「NEAT」が日本経済新聞社・優秀製品最優秀賞を受賞
1974	●ミサワホーム総合研究所の新社屋完成に伴い、降雪・暴風雨などの実大実験ができる環境実験室を設置 ●省エネルギーの到達目標を明示し、一貫した開発計画のもとに段階的に追求していく「エコ・エネルギー計画」を発表 ●「ミサワホームF」建設大臣工業化住宅性能認定を取得	1990	●ミサワホームグループ全体の企業行動理念として、地球環境を視野に入れた「環境宣言」を発表 ●「花と緑の博覧会」に太陽追尾システムを搭載した「ゼロ・エネルギー住宅」のイメージモデルを出展 ●「GOMAS」の高級引違いサッシ・通産省のグッドデザイン部門別大賞を受賞
1975	●「ミサワホームC」建設大臣工業化住宅性能認定を取得 ●通産大臣から品質管理優良工場認定を取得（18工場）	1991	●「GOMAS」日本経済新聞社・優秀製品優秀賞を受賞 ●南極昭和基地再開発構想の第1弾「管理棟」を国立極地研究所より受注 ●'91グッドデザインマーク商品に「GOMAS」が工業化住宅として初の選定
1976	●ベストセラー企画住宅「O型」を発売 ●「ハウス55開発提案競技」に入選	1992	⑤生活エネルギー自給率85%で、売電システム初採用の「エコ・エネルギー住宅」を開発、試行建設を実施 ●ミサワ総研『住まいの文化誌』が建設大臣表彰を受賞
1977	●「太陽エネルギー利用住宅」の開発に着手し、当時先進のパンプソーラーハウスの試行建設を実施	1993	●超微粒子木材を他素材と複合することで、貴重な木資源を余すことなく活用する「M-Wood」を開発 ●介護専用型住宅「マザアス南柏」完成
1978	●通産大臣による品質管理優良工場認定が21工場となる	1994	●太陽電池モジュールがそのまま屋根になる、世界初の屋根建材型「太陽光発電システム」を本格発売開始
1979	●アメリカの著名な消費者運動家ラルフ・ネーダー氏が来日し、日本の住宅産業に「12の提言」	1995	●北米材から、計画植林・伐採可能な北欧材への切り替えとして、フィンランドに製材工場を建設 ●「100年住宅」誕生 ●阪神・淡路大震災で建物倒壊なく、強度を立証
1980	●太陽熱を利用する独自の温水システムを越屋根に搭載した省エネルギー型ソーラーハウス「SⅢ型」発売		
1981	③当時の国家プロジェクト「ハウス55計画」を商品化させた環境負荷の少ない住宅「ミサワホーム55」発売 ●「エコ・エネルギー住宅」の次なる目標として、「ゼロ・エネルギー住宅」の研究開発に着手 ●「新耐震設計基準」を施行、ミサワホーム全商品で基準をクリア ●「長期保証制度」を実施 ●ミサワホーム東証、大証第1部に上場		



1996	⑥「GENIUS蔵のある家」が、全部門の中から住宅として初のグッドデザイングランプリを受賞 ●ミサワバウハウスコレクションを開発	2002	●微気候に配慮した快適なまちづくりを推進するマリナイースト21「森と海・碧浜」が第1期分譲開始 ●「微気候設計・デザイン」を取り入れた快適な住性能が評価され、「CENTURY」がグッドデザイン賞を受賞 ●100%リサイクル木素材「M-Wood2」のエクステリア部品が、(財)日本環境協会によるエコマーク認定
1997	●環境理念と6つの行動指針を発表した、新・環境宣言「HEARTH」リーフレットを作成 ●ミサワホーム松本工場が環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001認証を業界で初めて取得 ●「消費者志向優良企業」として通産大臣賞を受賞 ⑦リサイクルした素材とリサイクルできる素材だけで構成された世界初「100%リサイクル住宅」が完成 ●ミサワホームフィンランド、信用格付で「AAA」を取得 ●JR2社と新型寝台車両の内装を共同開発 ●'97グッドデザインマーク商品に「ミサワオリジナルガーデンシステム」が金賞を受賞 ●東大と3階建住宅の実大振動実験を実施	2003	●フロアセントラル換気システム技術をオープン化 ●ミサワホームホールディングスを設立
1998	⑧創エネルギー、省エネルギー、オール電化設備を融合した世界初のゼロ・エネルギー住宅「HYBRID-Z」発売 ●「ゼロ・エネルギー住宅」の企画販売などが評価され、環境省より「環境保全功労者」に表彰(地球温暖化部門) ●世界初の屋根建材型太陽光発電システムが評価され、第8回「日経地球環境技術賞」を受賞 ●「HYBRID-Z」がグッドデザイン金賞を受賞	2004	⑩実大振動実験における13回の想定大地震にも構造体の損傷ゼロを確認した制震装置「MGEO」発売 ●世界最大の太陽光発電住宅モデル団地「ヒルズガーデン清田」が北海道新エネルギー促進大賞受賞 ●「M-Wood2」が「愛・地球博」の会場デッキ、西エントランス部分の合計約19,000㎡に採用 ●燃料電池市場参入開始 ●品川区高齢者複合施設「ケアホーム西五反田」「さくらハイツ西五反田」オープン ●臨沂三澤有限公司、JAS認定を取得
1999	●「M-Wood」の技術を応用し、建築解体廃棄物の再生利用が可能な100%リサイクル木素材「M-Wood2」を開発 ⑨「M-Wood」の開発や「ゼロ・エネルギー住宅」の実現などが評価され、業界初の「地球環境大賞」を受賞 ●(財)建築環境・省エネルギー機構が創設した「環境共生住宅」認定を、「エコ・エネルギー住宅」が取得 ●ミサワホームの環境への幅広い取り組みを紹介した、業界初の「環境活動報告書」を作成 ●ミサワホームが「ISO14001」の認証を取得 ●「オナーズヒル新百合ヶ丘」がグッドデザイン賞を受賞	2005	●“エコノマイズ”を提唱する「HYBRID自由空間」発売 ●「M-Wood」が広域認定制度の認定を取得し、端材の広域回収による効率的なリサイクルを実現 ●「GENIUS SMART STYLE ECO MODEL」発売 ●在来木造リフォーム用制震システム「MGEO-R」発売 ⑫先人の知恵と先進の技術・デザインを融合した「ECO・微気候デザイン」全面採用の「CENTURY VikiCourt」発売 ●ハイブリッド住宅用制震装置「MGEO-H」発売
2000	●太陽光発電システムなど、21世紀の環境技術を融合した環境共生住宅「HYBRID地球人の家」発売 ●「M-Wood2エクステリア」などがグッドデザイン賞を受賞	2006	⑬都市で快適に暮らす「ECO・微気候デザイン」を取り入れた「GENIUS URBAN DESIGNERS VikiFEMY」発売 ●太陽光発電、オール電化を標準装備し、「ECO・微気候デザイン」採用の「HYBRID ECO-design」がグッドデザイン賞を受賞 ●「ミサワパーク東京」など住まいづくりのテーマパークが全国各地にオープン
2001	⑩既存樹木と地形をいかし、自然との共生をよく考えたまちづくり「宮崎台「桜坂」」がグッドデザイン賞を受賞 ●ミサワホーム岡山工場の新エネルギーシステムが新エネ大賞最高賞の「経済産業大臣賞」を受賞 ●「ミサワホームイング」を全国展開	2007	●創立40周年記念商品「SMART STYLE O40」発売 ●「GENIUS Link-Age」他が第1回キッズデザイン賞を受賞 ●ミサワホーム株式会社に社名変更 ●ミサワホーム全工場でゼロ・エミッションを達成 ●北海道・旭川に次世代ゼロエネルギー住宅の試行棟完成
		2008	●クリックで建てる「MISAWA WEB DIRECT」を開発 ●第2回キッズデザイン賞を受賞 ⑭蒸暑地タイプの「次世代ゼロエネルギー住宅」試行棟が三重県に完成 ●現場ゼロ・エミッションを目指し環境省より「広域認定制度」の認定取得



ミサワホームグループネットワーク

ミサワホーム株式会社（東証、大証、名証各1部）03-3345-1111

住宅事業

木質 デ ィ ー ラ ー

【北海道】

ミサワホーム北海道(札幌)
(北海道)

【東北】

東北ミサワホーム(東証1部)
(青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島)

ミサワホーム庄司
(福島)

堀江ミサワホーム
(福島)

【関東甲信越】

ミサワホーム下館
(茨城)

栃木ミサワホーム
(栃木)

上信ミサワホーム
(群馬)

ミサワホーム西関東
(群馬・埼玉)

ミサワホーム東関東
(茨城・千葉)

ミサワホーム館山
(千葉)

旭ミサワホーム
(千葉)

ミサワホーム東京
(東京・神奈川)

ミサワホーム多摩
(東京)

湘南ミサワホーム
(神奈川)

ミサワホーム信越
(新潟・長野)

ミサワホーム上越
(新潟)

ミサワホーム佐渡
(新潟)

ミサワホーム山梨
(山梨)

ミサワホーム東長野
(長野)

【北陸】

北陸ミサワホーム(JASDAQ)
(富山・石川・福井)

ミサワホーム富山
(富山)

【東海】

ミサワホーム静岡
(静岡)

ミサワホーム東海
(岐阜・愛知・三重)

【近畿】

ミサワホーム近畿
(滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良)

ミサワホーム杉橋
(滋賀)

和歌山ミサワホーム
(和歌山)

ミサワホーム高階
(兵庫)

ミサワホーム神田組
(兵庫)

【四国】

穴吹ミサワホーム
(徳島・香川・愛媛・高知)

ミサワホーム小豆島
(香川)

【中国】

ミサワホーム中国(JASDAQ)
(鳥取・島根・岡山・広島・山口)

ミサワホーム中原組
(山口)

【九州】

ミサワホーム九州
(福岡・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

ミサワホーム佐賀
(佐賀)

ミサワホーム別府
(大分)

セ ラ ミ ッ ク デ ィ ー ラ ー

【東北】

ミサワセラミックホーム仙台
(宮城)

【関東甲信越】

ミサワセラミックホーム栃木
(栃木)

ミサワホーム西関東セラミック
(群馬・埼玉)

ミサワホーム東関東セラミック
(茨城・千葉)

ミサワホームセラミック
(埼玉・東京・神奈川)

ミサワセラミックホーム信越
(新潟・長野)

ミサワホーム山梨セラミック
(山梨)

【北陸】

北陸ミサワホームセラミック
(石川)

【東海】

ミサワホームセラミック
(愛知・岐阜・静岡)

ミサワホーム静岡セラミック
(静岡)

ミサワホーム東海セラミック
(岐阜・愛知・三重)

ミサワホームセラミック遊
(愛知)

ミサワセラミックホーム三重
(三重)

【近畿】

ミサワホームセラミック
(滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良)

ミサワホーム近畿セラミック
(滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良)

ミサワセラミックホーム和歌山
(和歌山)

【四国】

穴吹ミサワホームセラミック
(徳島・香川・愛媛・高知)

【中国】

ミサワセラミックホーム中国
(鳥取・島根・岡山・広島・山口)

ミサワセラミックホーム新山口
(山口)

【九州】

ミサワホーム九州セラミック
(福岡・長崎・熊本・大分・宮崎)

ミサワセラミックホーム佐賀
(佐賀)

ミサワセラミックホーム鹿児島
(鹿児島)

ホ ー ム イ ン グ デ ィ ー ラ ー

【北海道】

ミサワホームイング北海道
(北海道 道央)

ミサワホームイング北海道NA
(北海道 道北)

【東北】

ミサワホームイング東北
(青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島)

【関東甲信越】

ミサワホームイング栃木
(栃木)

ミサワホームイング西関東
(群馬・埼玉)

ミサワホームイング東関東
(茨城・千葉)

ミサワホームイング東京
(東京・神奈川)

ミサワホームイング多摩
(東京)

ミサワホームイング湘南
(神奈川)

ミサワホームイング新潟
(新潟)

ミサワホームイング山梨
(山梨)

ミサワホームイング長野
(長野)

【北陸】

ミサワホームイング北陸
(富山・石川・福井)

ミサワホームイング富山
(富山)

【東海】

ミサワホームイング静岡
(静岡)

ミサワホームイング東海
(岐阜・愛知・三重)

【近畿】

ミサワホームイング近畿
(滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良)

ミサワホームイング和歌山
(和歌山)

【四国】

穴吹ミサワホームイング
(徳島・香川・愛媛・高知)

【中国】

ミサワホームイング中国
(鳥取・島根・岡山・広島・山口)

【九州】

ミサワホームイング九州
(福岡・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

ミサワホームイング佐賀
(佐賀)

ミサワセラミックホームイング鹿児島
(鹿児島)

【セラミック】

ミサワホームイングセラミック
(東京・静岡・愛知・滋賀・大阪)

関連会社

ミサワホーム総合研究所 03-3247-5644

ミサワエクステリア 03-5929-1851

ミサワエムアールディー 03-3345-7990

メディアエムジー 03-5339-8500

マザアス 04-7176-8711

ミサワテクノ 0263-58-2100

【海外】

ミサワホームフィンランド

臨沂三澤木業有限公司

2009年5月現在

[本書をご覧になる際、以下の注意事項をご確認ください] ＊本書に掲載されている写真・イラストには、オプション仕様や仕様外のものが含まれています。また一部、合成処理を行った写真があります。内容、仕様・設備・寸法（サイズ）の一部については、実際の発売商品とは異なる場合があります。また、技術改良のため予告なく変更する場合があります。記載の数値は許容公差を含みます。写真の色は、印刷の関係上、実際とは異なります。本書にはミサワホーム株式会社の知的財産、ノウハウが含まれているところがあります。本書の内容を本来の目的以外に使用することや、当社の許可なくして複製・転載することとはご遠慮ください。

商品の詳しい内容や住まいづくりのご相談・
お問い合わせは、お近くのみサワホームへ。

www.misawa.co.jp

ミサワホーム株式会社

〒163-0833 東京都新宿区西新宿2丁目4番1号

最後までお読みいただき、ありがとうございました。 ご意見・ご感想をお聞かせください。

ミサワホームは、工業化住宅メーカーとして
社会的責任を果たし、環境保全に努めるとともに、その活動内容を年度ごとに
「ミサワホームCSR報告書」にまとめ、広く公開してまいります。

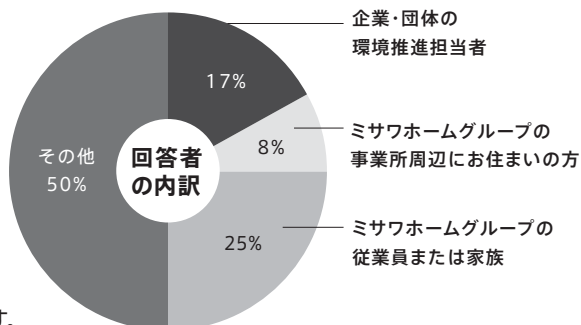
今後のよりよい報告書づくりのために、
皆さまから多くの貴重なご意見・ご感想を
お寄せいただければ幸いです。よろしければ、お手数ですが、
裏面のアンケートにご記入のうえ、FAXまたは郵送にて
ご返信いただきますようお願い申し上げます。

2009年9月

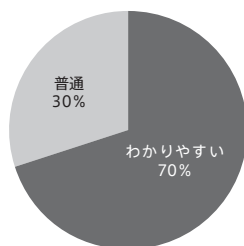


2008年度ミサワホームCSR報告書 読者の皆さまのアンケート結果

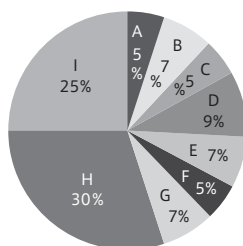
昨年に発行した「ミサワホームCSR報告書」について、
読者の皆さまから貴重なご意見・ご感想をお寄せいただきました。
ご協力いただきありがとうございました。
皆さまからのご意見・ご感想については、
CSR報告書を作成するにあたり参考にさせていただいております。
今年度のアンケートにも是非ご協力をいただきますようお願いいたします。



Q1 この報告書の内容は
いかがでしたか。

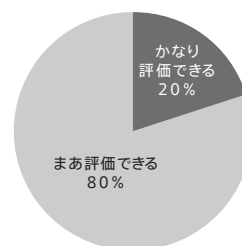


Q2 この報告書の中で印象に残った、または役に立ったと
思われる内容はどれですか。
(複数回答可)



- A. 会社概要・編集方針
- B. 企業理念
- C. 2007年度CSR活動トピックス
- D. お客さまと共に
- E. 従業員と共に
- F. 社会と共に
- G. ミサワホームの環境への関わり
- H. 地球環境と共に
- I. その他

Q3 この報告書を読まれて、
ミサワホームの環境活動について
どのように思われましたか。



ミサワホーム株式会社 建設推進部 環境推進グループ

2009年度 ミサワホームCSR 報告書 アンケート

Q1 この報告書の内容はいかがでしたか？

☐ わかりやすい ☐ 普通 ☐ わかりにくい

Q2 この報告書の中で、印象に残った、役に立ったと思われる内容はどれですか？（いくつでも可）

☐ 会社概要・編集方針 ☐ トップコミットメント ☐ 企業理念 ☐ 経営ビジョン・新中期経営計画 ☐ 4つの育む
☐ コーポレートガバナンス ☐ 2008年度CSR活動トピックス

HEART お客さまと共に ☐ 良質な商品の開発 ☐ 良質なサービスの提供 従業員と共に ☐ 労働環境の整備

取引先と共に ☐ 協力・教育・啓発 株主（投資家）と共に ☐ 経営指標及び開示方針 社会と共に ☐ まちづくり ☐ 社会貢献

EARTH ☐ ミサワホームグループの環境への取り組み ☐ ミサワホームの環境会計 ☐ ミサワホームの環境マネジメントシステム
☐ ミサワホームの環境への関わり ☐ 2008年度環境活動の実績と自己評価

地球環境と共に ☐ CO₂削減 ☐ 資源の有効活用 ☐ ゼロ・エミッション ☐ サイトレポート ☐ 健康配慮

☐ 事務所の環境推進運動 ☐ 環境コミュニケーション

☐ ミサワホームグループの沿革 ☐ ミサワホームグループネットワーク

内容についてのご意見・ご感想を具体的にお聞かせください。

()

Q3 この報告書を読まれて、ミサワホームのCSR活動についてどのように思われましたか？

☐ かなり評価できる ☐ まあ評価できる ☐ あまり評価できない ☐ まったく評価できない
 上記のように思われた理由をお聞かせください。

()

Q4 この報告書をどのような立場でお読みになりましたか？

☐ 住宅購入検討者 ☐ お取引先 ☐ 株主・投資家 ☐ 報道関係 ☐ 研究・教育関係
☐ 企業・団体のCSR・環境推進担当者 ☐ 環境NPO ☐ 学生 ☐ 行政機関
☐ ミサワホームグループの事業所周辺にお住まいの方 ☐ ミサワホームグループの従業員または家族
☐ その他 ()

Q5 今後の住宅メーカーの取り組むべき社会的責任・環境課題等について、ご意見をお聞かせください。

()

Q6 来年度の報告書をご希望になりますか？

☐ 希望する ☐ 希望しない

来年度のCSR報告書をご希望される方は、ご記入ください。

ご記入いただいた個人情報は、来年度の報告書送付及び当アンケートの集計以外の目的に利用
 することはありません。当社の個人情報のお取り扱いについては、
www.misawa.co.jp/privacyをご覧ください。

お名前

性別

ご年齢

歳

ご住所 〒

ご職業

(勤務先・学校名など)

ご連絡先 電話番号：

Eメールアドレス：

MISAWA

発行部署 ミサワホーム株式会社
建設推進部 環境推進グループ 経営企画部 広報・IRグループ

〒163-0833 東京都新宿区西新宿二丁目4番1号

お問い合わせ先 TEL:03-3349-8088 FAX:03-5381-7838 E-Mail:kankyo@misawa.co.jp

www.misawa.co.jp/csr

2009.9 発行